女學雜誌

第二百二號目次

社説　今日の女子、政黨に入る可らず○

論説　幾多の非廢娼論(讀賣新聞を駁す)「つぼみ」雜誌を讀みて感を記す

批評　女子參政權の辨難を評す(撫象子)○毛糸編物教授本○帝國議會要論

雜錄　雛かざり○新島襄先生の歌○想夫憐の解○貧乏の原因○赤子に飲ます乳○新工風寫眞版○女生徒國分表○亡き姉君を想ふ○きよめぬ庭

小説　イナック、アーデンものがたり

寄書　武藏野○失意歎○今樣お姫樣の御執揃○日出る處の歌○讀賣新聞女生に關する記事を讀みて

開書　愛する諸姉に申します○閨秀の寫眞○交詢

時事　女學生の風聞○風聞の出處○出處の製造元○よし之ありとするも○社員、アッケルマン孃を訪ふ○谷將軍の女論○廢娼記事

女報　貴婦人法話會○東京府高等女學校○外國人の存娼演説○娼妓の數○山口高等女學校○園部婦人會○寄松祝

"Woman will make homelike every place she enters, and she will enter every place on this round earth" F. Willard.

本號には

女子と政黨との大問題。
讀賣記者を駁す。
女學生醜聞の辨。
社員アッケルマン孃を訪ふの記。
府下各女學校生徒國分。
新島襄先生の歌。

注意せよ

三月一日發兌　第二百二號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 202. 1st. March, 1890.

EDITORIAL:—The Women of To-day should not join Political Parties. Several Kinds of Abolition. (On Reading the *Yomiuri Shimbun's* Toleration of Licensed Prostitution).

LEADING ARTICLES:—Some thoughts on reading the *Tsubomi.*

CRITICAL NOTES:—A Review on the controversies about Woman's Suffrage. "A Teacher's Hand-Book on Crocket.", "Important Questions concerning the Imperial Diet."

MISCELLANEOUS:—The Doll Show of March. Poems by Dr. Nishima. A Foreigner's Home. Explanation of 'Sofu-rin.' Cause of Poverty. Improved Photographic plates. Thoughts on the lost Sister. (Sei-do Shoshi). The Humours.

OPEN LETTERS:—

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

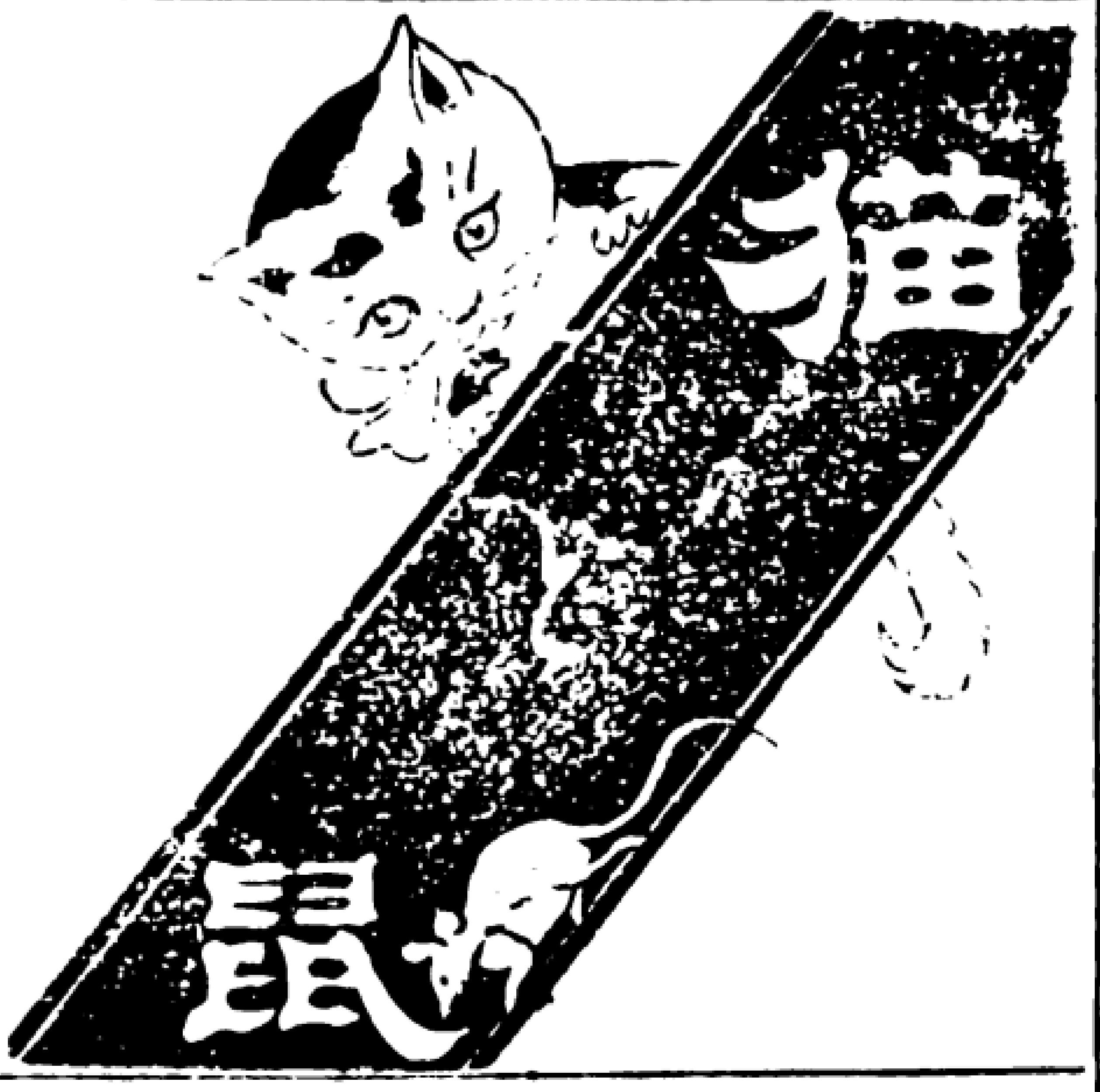
前號には

前號には
女學雜誌第十二巻の總目錄
角田眞平氏の存娼論を駁す
文學は男子の天職に非ず
グラッドストン氏離婚論の考
府下著名小說家の雅號及實名
アッケルマン孃の肖像、等を
掲載せり

賣捌所 女學雜誌社 東京麹町富士見町

	定價
○看病婦美談	全二十五錢
○メレライ音傳	全十五錢
○幼育艸	全二十錢
○婦女子の職務	全十錢
○禁酒演說集	全六錢
○エリサベツ小傳	全十八錢
○千代之礎	全二十二錢
○ゼシカ最初の祈禱	全十六錢
○からくさ	全十五錢
○十誡說明	全十八錢
○聖書名婦傳	全二十錢

賣捌所 警醒社 東京新橋出雲町一



は面白き勧懲繪草紙にして第一子供にも分り易く大人にも教へとなるべき意味ある書物なれば土産遺物としては無類のものに候

定價一冊十錢
郵送料二錢

あれども女學雜誌の讀者に限り郵税共九錢にて賣捌候間御注文の程願上候

女學雜誌 第二百二號
明治二十三年三月一日發兌

社説

今日の女子、政黨に入る可らず

此頃の事なり、大井ゆき子と云へる一婦人が自由黨に加盟せんとしたるに、府下猿屋町警察署長は之を認可せざりし由、之れに付き世上の新聞紙は囂々論辨し、中には日本婦人が初めて非尋常の屈辱を受けたるかの如くに激論する族らもあり、近來の一珍事にして且つ其事たる少さか末頼母しきの傾向を現ずるものなれども、吾人が思ふ所ろは少さか之に相違し、敢て今更の如くに驚くともなく、又今更ら事々しく述ぶるの必要もなく隨つて其利益もあるまじと信じ居たり、然れども社友中往々書を寄せ、悲憤慷慨の文辭を以て吾人を促すものあるが故に、敢て素懷を一辨し置かずばあるべからず。

夫れ男女は素より同權あり、然れども其同權と云ふ之を人類とし社會上の平民として云ふの同權にして、敢て政治上に於けるの同權を云ふものにあらず、政治上に於ては金錢の多寡、年齡の高低によりてすら其權を異にするとあり、況んや男女の如く其性を別にするに於ては其間亦多少の異權あらざるなきを得んや、たとひ之あるとも女子が男子よりも卑きにあらざるとは衆議院の議員が貴族院の議員よりも劣等人種にあらざるに同じ、總じて夫々の地に達するには夫々の資格を要す、而して此の資格を定むるは時勢の文野開暗を見計らひ只管ら政治上の問題として權衡調理すべきの者たり。

左れば、國民を左程の大人とし見ざる時には、之に政治上の權を與ふるに多くの容赦を爲すとあり、此に於てか坊守若しくは教師は議員となるとを得ずと定め、地租十五圓以上を納めざれば撰擧權なしと定め、年齡三十才に達せざれば被撰擧權を有せずと定むるの類、皆な國民を子供に見たるの憲制たり、左れば從來政治論に慣れざるもの、もしくは政治界に入りては反つて全躰に害あらんと掛念せらるゝものに對して、其の政治論を爲すとを止め、若くは政黨に入るとを止むるとは固より當に爲すべきの處置なり、婦女子及未丁年男子が政黨に入るとを差止むるの精神亦之に同じ。日本政府が國民を子供視するの度數に關しては議論もあるべし、同じく婦人及び未丁年男子の權を制するの度數に關しては亦た一問題となさゞる可らず、左れど或る限り迄て之を子供視し之を制するの事は天下万民皆な公認し且つ默許し居るの事相なるが故

に、今更ら事々しく異論するとも効ある可らず。

然らば、之を子供視し之を制するの度數果して適當なりや否やと云ふに、今の婦女子には其何如なる人物にも被撰擧權を與へざるは言ふ迄もなく、其何如なる婦人にも何等の撰擧權をすら附與するとなし、此時に當りて之が政黨に加入するとを差止むる如きとは無論連係の法として當に施行すべきの處置にあらずや。政黨に入るものは警察署に於て一々聞屆けると云ふは既に不思議あるとなり、然れども現に此の不思議を行ふの民度に於ては婦女子の入黨を差止むる如きとは當然の事なり、吾人は今の法律が日本人民の文度に恰好く適當するや否やと云ふとを知らず、然れども法律は其度合及性質に於て調和平均を要するものあるが故に、現今の法律の精神に於ては勢ひ如此き處置に結果せざる可らず、故に吾人は此度の事を見て珍事なりとせず、當然の事とせり。

然ども、婦女子は○○到底政治に關係す可らざる乎、到底政黨に入る可らざる乎、到底議員を撰擧し若くは撰擧せらるゝとある可らざる乎と云はんには、吾人は斷じて其然る可らざるを信じ、尙ほ其然あらざる耳あらず男女均く政治上社會上に分勞するの日の速に來らんとを信じ、日祈るものの也。男女は永遠其職を異にすべし、然ども政治上にも社會上にも男女相併び勞を分つべきの職務あるべし、一家內に婦女子を女王とすべきホームある如く、一國全天下の中にも亦婦女子を戴くべきのホームあるべし、男子もし外務大臣となれば女子內務大臣とあり、男子もし軍務大臣とあれば女子文部大臣となるの日必ず來るべし、而して世は遂に其方向に向ひ吾人は則ち其方向に進ませんとに盡力するもの也。但夫政治上の問題に至りては民度の如何を考へて着々進歩せざるべからざるが故に、今日に於て女子が政黨に入るとを差止らるゝの一事は、今の法律の精神に於ては當然の處置たり、又今の婦人の地位及び婦人が政黨に對する最も利益あるの處置に於ては、之を禁ぜらるゝも亦左程に悲むべきにあらずと信ず、故に吾人は特に世の論者と相違し、今日に於て甚だ默する所以也。

嗚呼日本には今年初めて政黨を生ず、即ち男子が初めて政黨の學校に入るの時なり、其混雜其爭闘定めし目覺しくあるべし、今の女子たるものは決して之に加入せず寧ろ之が調和を計り超然政黨外に立つて溫和に之を圓轉するの務を爲さゞる可らず、之れ今の女子に於ける最當然最有益の天職なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

幾多の非廢娼論（三）

讀賣新聞の存娼論を駁す

問　角田眞平氏の御論に付きては既に承わり候、續きては讀賣新聞の存娼論とか申すを伺ひたく候。

答　讀賣新聞も亦た假の存娼論にて、願ふ所は同じく廢娼にあれど只だ間接に其方法を運らし叙々に實行せんとするの主旨にて、矢張り角田氏と同類に屬する者に候。扨て、其存娼論は去年十二月四日より同じく七日に渉り、都合四篇の長文章に候、故に亦た前例に隨がひ、其反對論の精髓を拔き左に一々畧表して、之に極めて簡短なる答論を添ゆべく候、難とあるは讀賣記者の説にて、答とあるは吾人の答にて候、

難　第一、存娼論の序として申すべし、讀賣新聞は尊娼論者にあらずして存娼論者あり存娼論者なれども一日も早く娼妓を社會に廢絶せしめんと欲す……然し之を除くに直接より爲さずして間接よりせんと欲す……婦人慈善會なり禁酒會なり廢娼論なり唯だ外觀的道德に過ぎず而して此外觀的道德は果して如何ほどの勢力を社會に及ぼすを得るや。

答　記者は婦人慈善會の設立に依て社會に幾多の貧疾を減じたるや、禁酒會の設立ありし以來幾何程の釀石高を減じたるやと嘲けり、之より推して廢娼論の同樣に實効なきとを冷笑せられたるが、之は極めて事實に暗き不熱心なる推察にて候、婦人慈善會が何程の貧疾を減じたるやは統計表にて直ちに分り可申、彼の慈惠醫院が年々極貧ある數千の病人を治療するは皆な此會の盡力にして其効驗尤とも明白に候、亦た禁酒會とても其通りにて玆に一人の禁酒者を出せば夫丈けの飲酒を減じたるにて即はち遂に釀石高を減ずるの理に候、之を國民全躰に對し、千二千の數を万十万の數に較ぶれば固より小さけれど、小さしとて全躰に効なしと云ふは愚論の極まりたる者に候、讀賣新聞は毎日一万枚うれる故へ、百人千人のお客が減りたりとて何の影響もなしと仰せあらば、之は經濟に頓着されぬ暴論にして其社の前途も心細く思はれ候、之に反し非常の御盡力にて一人の花客にても殖さんとせらるゝは、丁度慈善會員が一人にても療さんとし、禁酒會員が一人にても殖さんとすると同じとにて、此一人一人が漸次に加りて理想に達する者に候。廢娼論とは、姦淫を責め、不德を戒め、風儀を改むるなどの議論を總稱する者にて即ち記者が所云間接廢娼の方法に當る者なれば、若間接廢娼の方法を執らんとする者は是非とも廢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

娼論を叫ぶべき筈に候。記者も此に心着きてか、后段に至り「廢娼論は盛んに之を唱ふべし」と言ひ作ら、此の序文に於ては廢娼論は無効なりとせらるゝと前后矛盾の說に候。

雑　第二、廢娼論の性質を申せば、今日廢娼論を爲す人々は宗教家なれば、宗教家は其職務上之を唱へざる可らず、即はち廢娼論は盛んに之を唱ふべし然れども今日廢娼を實行することは到底行ふ可らざるものと知れ……十九世紀の今日其道德の腐敗せるは敢て春秋戰國に讓らず而して今の廢娼論者は聖孔賢孟よあらず聖賢之を前に救ふ能はず況んや論者に於てをや。

答　廢娼論は宗教家が言ひ出したる者ゆへ宗教家の職務としては盛んに唱へざる可らずたとひ實行の出來ぬ者と思ふとも役目の上より盛んに唱へざる可らず、と仰せあるやうなるが、凡そ到底實行の出來ぬとは何如に宗教家なりとて唱ふるも詮なきことに候、たゞ其實行の出來ぬと云ふは世人が弱きゆへなり惡しきゆへありと思ふときは、則はちドコ迄も盛んに傳導して之を遂に移し其の實行の出來る日を可成く近く近づけるやうに致すは凡そ先輩たるものゝ責任に候、啻に宗教家たるものゝみの責任にあらず總じて社會の木鐸を以て任ずる新聞記者たるものゝ責任に候、故に廢娼論と總稱する中ちにも、廢娼の年限等に付きては種々の異論あるともツマリ成るべく早く廢娼させたし社會の風儀を成るべく左樣に導きたしと思ふことは新聞記者たる彼の人々の同じく熱望せらるべき筈なり、道德上の事は一切宗教家に任す、新聞紙は算盤玉の議論のみをするものと仰せあらば只だ〳〵歎くより外なきことに候。又た今日の時勢に付きて非常に御落膽の樣子、御尤ともの儀にて吾々も同樣に歎息することに候らへども、現に今の明治年代は維新前よりも不道德に相成りたるにあらずや、維新前、政府に於て公許したる娼館は日本國中にて只だ四ヶ所に過ぎず、則はち江戶の吉原、京の嶋原、大坂の新町、伊勢の古市にて、此等は勤番者、商人、參宮人などの爲めに止を得ず設けたるものにて候ひし、其外宿驛港などにあるものは一切密賣と見做せしゆへ、士らひが此に近づきしなどとあれば以ての外の不埒として交際を絕つかお役御免にするか嚴しき所ろにては追拂ひにも致したることに候、シテ四ヶ所の娼館はクルワと稱へて公許せられ居るゆへ此に遊ぶとは先づ〳〵大目に見たれど、左るにても士らひは深編笠を冠りて廓通

ひし決して明々白晝に堂々濶歩して今日の如くにくるひ參るなどの事は無之候ひき、而して藩々の掟は皆な嚴重にしてなか〳〵當世の如き圖漏あるものにてはあらざりしとに候。然るに今日は文明進歩せり人智開發せりと誇り乍ら其品行風儀が此の維新前の人民にすら及ばぬと云ふは何のゆへに候乎。必竟此れ各地至る所に妓樓を公許し姦淫を恥かしからぬとに思はせ絕て昔しの如く不義密通を惡まするの取締なきゆへと存じ候。左れば今の日本は實に戰國亂離の時世に同じとするも、彼の維新前の人民ほどにだも至らずと云ふとは決してあるまじく候、之は爲しがたきにあらず爲ざるとにて若し記者の如く不熱心にてあらば何千年を過すとも社會の裁制を引しむるとは出來申すまじく候。

難　第三、廢娼實行の困難少なからず、夫れ娼妓の營業は最とも卑しむべき者にて所云る牛馬業と稱するものなれども娼妓其者は牛馬に非ずして人類なり故に濫りに其業を禁じてこれをして路頭に迷わしむ可らず、之を禁じたるのち正業に轉ぜしむるが爲め準備整頓せざるときは彼等は密賣とあるべし、而して此密賣をも若し嚴禁するときはこの方策行わるゝと同時に娼妓は饑へて死なざる可らず。

答　廢娼に色々の方策はあれど、少なくとも今の娼妓は今后何年と限り其日に至り最早勤續ぎの出來ぬやうに預かじめ制限するが至當と存ず、東京にても六年に定まり居るゆへ全國を通じ六年位ひに限るとは出來申すべきか。扨て記者の說は、今の娼妓の營業を突然に禁止するときは彼等をして路頭に迷わしむと仰せあるとか、左樣ならば右に申す如く預じめ年限を定るとにさへ致さば御心配はあるまじ。然し惣躰何日にても之を禁ずると云ふとが彼等に可あい相なりと仰せあるとならば、東京府下の如く六年后は再たび勤むるとを許さずとありて恰かも其日に至り娼妓を爲すとを禁ずるに均しき處置を施すは矢張り彼等に可あい相あるとには候はずや、然らば記者は娼妓勤めの年限を全廢するとの御說を抱かるべき筈なり、然し夫は記者の本志にあるまじと信ず。夫故へ、今の娼妓に付ての御心配は最早無用といたし、扨て廢娼論行わるゝときは今后娼妓に爲らんとする者が爲れぬ即はち貧困女子の爲に一の營業を禁止したるとゆへ可あい相ありと仰せあらば、記者既に此業を牛馬業なりと御承知ある以上は人に牛馬の業を爲させるが反つて一層可あい相なるとに御注意は候はずや、此の社會は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

不完然の社會なれども然とて不正を爲ねば餓死すると云ふ程に甚しくもこれあるまじ、大和十津川の人民は家も身代も地面も何物も失ひたれど夫が爲に娘妻を娼妓にしたりとも聞及び不申、人は心次第にて何如なる仕事も出來るものに候、婦女子をして正業に就くことに掛念せしめず望みによりては牛馬となるとも出來る米を食ひ錦を着る所ろの牛馬となるとも出來ると申すやうに容赦し置くは慈悲に似て却つて大ひなる不慈悲に候。特に婦女子が淫を賣りて生計することを恥ぢぬやう相成るときは、正業に苦心して僅かの金を得るものは段々少なくなり、元來正業に就き得たるもの迄が密賣淫と相成るものにて、田舍などに行いて聞けば其實例至る所ろに聞え候、即はち娼妓賣淫を許すによりて正業の發達を妨たげ、本來人として在り得るの婦女子を特更ら落ちて牛馬とならしむるものに候、夫故へ娼妓を公許し置きながら一方に女子授産場を設けたりとも何の効も無之、たとへば下野の梁田等にて女工場の近邊に密賣淫が出來、彼等は一日ぶら〳〵遊び居りて反つて終日辛苦する女工よりも多くの金をもうけるとて、女工場中の女迄が段々に風儀を惡しくせし如き景況となるものに候。吾人廢娼論者は、密賣淫を減ずると、梅毒を防ぐと、女子授産の途に周旋するなどの事に付ては今后永久盡力する心掛なれども、第一着手として公娼を廢し密賣を嚴禁し公衆が姦淫を惡むと云ふやうに致さねば成らぬと申すは此故にて候、左れば、今の娼妓及び今后娼妓とならんとするものが廢娼論の爲に難義をすると云ふことは決してあるまじく候。

難　第四、干涉的廢娼の弊害は、只に右に云へる娼妓の爲のみならず貸坐敷引手茶屋妓夫やり手新造迄にも損害を及ぼし彼等は之が爲めに非常に難義すべし。

答　之は物事の改良には免れざる出來事に候、然し各地方の調べを承わるに妓樓は其地方の分限者の中にて大抵金もちの上流に位ひするものに候、左れば彼等が社會の改革の爲に難義するとも彼の憐れむべき人力挽が職を失なひて難義するとは非常の相違に候、然るに鐵道を敷きて新に滊車を通ずるときは幾万の極貧なる人力挽は其業を失なふと云へど之が爲めに文明の利器を實用せずと云ふ者あるまじく存じ候、貧困無上なる人力車夫の爲にすら尙ほ此如くば社會改良の爲に妓樓主人が難義する位ひの事は固より忍ぶべき筈と存じ候、而して妓樓が業を止めたる爲めに引手茶

屋妓夫やり手新造などが困る云々の事は、車夫が業を止めたる爲に、着賃宿、ポッタラ燒、煑込店、草鞋つくりなどが難儀すると同樣の事にて、連帶商人の困却は時節致し方なきことゝ存ず。又た記者は、此段の末に「道德と宗敎とが天然の情慾を制するの力最も大なる時に至れば廢娼論實行せらるべし」と云はれ候が、抑そも道德と宗敎とが人の情慾を制せんとするには先づ誘惑的の惡魔を退ぞけずば相成らず、今日廢娼論を主張し且つ實行せんとするは卽ち此誘惑的の公行するを防ぎ其の裁制を行わんとするの處置にて候、公娼を廢さずに置き卽ち姦淫を公許し置きて道德上の勢力を強くせよと云ふは矛盾を求るの請求に候。又た梅毒云々の事は既に毎度前號に述べたる通り、公娼廢止后決して增加せず遂に減ずるものゆへ、御安心ありて然るべく存ず、吾々は統計表によりて申すにあらず、情理と當然の推察とによりて確信するものに候。尚亦た記者は公娼廢止の后ち初めて神聖なる家族を汚すもの出來するやうにお考へあれど、公娼を置き姦淫を公許することが卽ちホームを破る最上の毒害なると曩に吾々が姦淫論三篇に於て述べたる通りに候、公娼を廢したる后に家族を害するにあらず

公娼を置くことがホームを毒する非常あることにて候。以上の如く畧答いたし候、讀賣記者も其精神に於ては可成く早く廢娼したしと仰せられ、且つ廢娼論は盛んに唱へざる可らずと迄に仰せある以上は、卽はち記者も亦た或る方法に據れる廢娼の論を盛んに唱へらるべき筈と存ず、此は社會の木鐸とあり特に木鐸中の尤も早く鳴り響くものとならんとする人々には大切の責任にて候、夫には讀賣新聞の小說に娼妓を主人公と致し、又は花柳の事を風流氣に物せらるゝ抔のことなきが肝腎に候、かゝることありては、其社說に於て切角廢娼を速かにしたしと懇望せらるゝとも、恰かも一方に火を燃やし乍ら跡より水を灑ぐ如く遂に其の効あるまじく、況して記者の言行一致せざることを證するものにて吾々記者の知己たるものには傍觀心苦しく存ずることに候。

書は之に向つて質問することを得ず、之が口より答を聞くことを得ず、故に書は遂に吾等に敎ゆることなし(ソクラツト)。

一死もし万事を畢らば、惡者は多福なる交易をなしつゝあり、何んとなれば彼等は其體を失ふと共に一身の罪惡を棄てたれば也、然れども死は實に万事を休せず靈魂は永遠滅せざるが故に、凡そ最高の智德に達するにあらざるよりは遂に罪惡を逃るゝの途を得ず(ソクラツト)。

論説

○「つぼみ」雜誌を讀みて感を記す

雲峯子

文章は思想を發表し智識を交換するものある事は今更云ふ迄もあし然れば此目的を達せば如何ある文章にても可あるべきか然り若其文章にて實用に適せば即ち可なり若亦實際に用ゆる能はずんば如何に文句は巧妙なるも趣向は高尚なるも殆んど社會に必要なしと云はざる可からず余嘗て我邦女子の文章に就て聊か考ふる處なきに非ず近頃關西の四大女學校聯合一致して此に「つぼみ」なる雜誌を發刊せられたり今こそ余の與見を吐露するの好機會なる可けれ。

男女均しく人間あり共に社會を組織するの必要分子たる事は疑ふ可くもあらず然れど其社會に於ける位置其盡すべき天職に至つては甚だ同じからず男子は社會の表面に奔走し女子は裏面にあつて盡力す男は人の見る處に立ち女は人の見ざる處に潜む彼が千軍萬馬を驅て戰場を横行するの勇士あれば是は帷幕の内に在つて竊かに奇計妙畧を案ずるの策者あり彼にして山上の燈臺とあるべくんば是は地中の礎たる可し一は活動的の動物にして他は沈靜的のものなり男女の相違斯の如し其天職の同じからざる亦宜なりと云ふ可し然るに之を知らずして徒に男子と權利を均くせんと欲し其位地を較べんと欲し其爲す處を同じくせんと欲せば迷妄の極と云はざる可からず世には往々生意氣論者あり輕薄者流あつて或は男女同權を主張し參政の權をも男女同等に享有せしむべしと說くものあり余は素より男女の位置を同等視せざるが故に斯る暴論空說に左袒するものに非ず只女子が其位置の如何を知り其天職を察し沈着温厚以て其盡すべき責任を盡されん事を希望するものあり。既に男女の位置同からず天職同じからずとせば其責任も從て異なるは理の覩易きものなり然れば男子が演壇に立て懸河の辨を揮ひ幾多の聽衆を感憤せしむるとも女子は之を見て演說家たらんと望むべからず男子が新聞記者となつて堂々天下を風靡するの勢ありとも女子は之を見て直ちに文章家たらんと望む可らず何となれば若女子にして男子の爲す所を悉くあさんと欲せば社會に女子の責任を盡す者なきに至る可ければあり今一歩を讓り女子の責任の如きは敢て意とするに足ずとするも男女其天賦の能力を異にするが故に女子は男子と共に社會の表面に立て東奔西走する能はざるを如何せん今試に問ん古來女子にして男子と等しく社會の表面に立て事業を爲し名を現せし者幾許かある我國の歷史に於て武人として稱せら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る丶者は神后皇后を始めとし巴、板額、常盤の輩數人に過ぎず文人としては小野の小町、紫式部、小式部內侍等數人に出でず西洋に於ても亦然り英文學史中に名を止むる女子は僅かに三四人のみ武人としては殆んど見るべき者なし女子が社會の表面に於て男子と對峙して爲す處の者斯の如く夫れ少きは抑何故ぞ人或は云はん敎育の男子に偏重するが故なりと是或は一理なきの言に非ざる可と雖も未だ以て男女其能力を異にするの說を破に足らず何となれば西洋諸國に於ては數百年の昔より女子の敎育も盛に行はれたればなり我國に於ても最初女子敎育の起りしより以來校舍に入り若くは敎師に就て敎育を蒙りし者は十年若くは七八年間學問に從ふなるべし然るに彼等の內に社會の表面に立つて事を取る者は殆んど余の眼に觸れざるが如し若余の見る處にして大過なくば女子は決して表面的活動的の位置に立つの天職を賦與せられたる者に非ず必らず社會の裏面に沈潜して以て男子を助くるの責任を有する者なる可し女子の責任既に斯の如し且つ女子の性大に男子と異なり優美、順良、温柔等の殊質を有する者なるが故に其思想感情等亦男子と同じからざるは論を待たざるべし。

其天職斯の如く其責任斯の如く其殊質亦斯の如し其文に至つても亦自ら異なる可きは自然の勢にして今更爭ふ可くもあらず然に我國の女子は少しく敎育を受くれば直に男子に拮抗し若しくは男子を凌がんと欲するが如き者なきにしも非ず然れば其文章の如きもつとめて男子と同じからん事を欲し男子が漢文直譯の如き文躰を用ゆれば女子も同じく之れを摸し男子が新聞躰とやら云ふ假名交り文を書けば女子も亦之れに倣ひ其の字句の搆造等少しも男子の文章に相違する處なし否近頃に至つては男子の文章却つて女子の文章より平易にして解し易きもの多し是れ豈彼此を轉倒せしものにあらずや何んとなれば文章は思想を發表するものにして思想は大いに其の性質と關係する所あればなり若し男子の長所は剛毅にして女子の得質は優美なる所に存すとせば其の思想も一は剛にして他は柔ならざる可からず然るに其の相違せる思想を發表するにも同樣の文章を用ひんと欲す否女子の文却つて男子の文より六づかしきもの多し其文章の面白からざる敢て怪しむに足らず余は「つぼみ」ある雜誌に對し望を屬せしと多かりき今ま其「發行の主意」及び會說二文を讀に四角の字句甚だ多く文章晦澁殆んど漢文を直譯せるものかと思へり然れども思ふに是は漢學先生の手になりしものならん其餘の青年女子諸君の作爲

せしものは必らず平易優美の文章あらんと、然るに「花壇」「名苑」の二欄中十有餘人の文章多くは兀々たるもののみ余の理想せし文章に近きもの丶如きは僅に一二あるのみ而して是れ即我國教育ある女子諸君の手に成りし者なりと云ふ、余は今諸君に問はんと欲す諸君は今後如何なる處に於に斯る文章を用ひんと欲するか、若後來諸君が新聞記者となり大著述家となり大文章家とならんと欲せば夫れ或は全く無用にもあらざる可し然れども是等の事業は果して女子の天職あるか女子の盡すべき責任あるか亦女子の性質に適する事業なるか余は今更此に多辨を費さず世自ら公論のあるあらん。

余と雖も女子が漢和洋の諸學を兼ね男子に劣らざる智識を貯へ天晴れ學者たらん事を希望するものあり然れども前に云へる如く男女天賦の能力を異にするを如何せん加之男子に比すれば女子は種々の事情ありて男子と共に勉學に腦力を費す能はざる可し故に智識の進歩學問の攻究に於ても到底男子と優劣を爭う能はざる可し然れば女子たるものは其責任を盡し天職を全ふするに足るものを勉強修練せざる可からず若日用往復文をも綴る能はずんばたとへ四書五經を誦するも殆んど用なきなり、日本人の接待をなす能はずばよし西洋人と巧に會話をなす何の益する所かあらん如何に四角四面の字を並列するとも若實用に適せずんばなきに如かず余は日本の女子諸君が斯る無用の文字に貴重なる腦力を費されんよりは寧ろ將來の實用に適する尺牘文を草せられん事を希望するものなり漢字の並べ方に苦心せんよりは寧ろ溫柔流麗ある假名文を學ばれん事を勸告せんとするものなり諸君願くは少しく顧みる所あれ。

若夫れ六ケしき字を用ひ解し難き句を並列するを以て文章の粹とせば余亦何をか云はん然れども古來文學者の說く所を見れば多くは解し易き字句を用ひて以て意を述ぶるを名文とは云へり何を苦んでか今日の女子諸君は猥りに多畫の字を多く用ひんと勤め玉ふや是實に余の解する能はざる所なり。

言文は果して一致すべきものなるや否やの問題は之を他日に讓り此に文躰變遷の大勢を察するに古へ漢學の我國に入り來りし頃より久しく漢文流行し明治以前迄は猶ほ漢文を作つて以て得々揚々たりし腐儒老碩甚はだ多かりき明治戊辰以降は文躰頓に變じ今日に於ては漢文を作るが如きものは殆んどなきに至れり啻に之れのみならず文躰は日一日に平易に移り言文一致さへ世にもて囃さるゝ時代とはなれり文躰の變移夫れ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

斯の如し此の時に當り女子——平易優美の文章を書くべき女子にして漢文直譯の如きものを出して姉妹校の修交又は文學の奨勵など大聲疾呼して得々揚々たるは抑何の故ぞや余は恐る斯る文章の行はるゝ間は徒に字句の構造にのみ苦慮焦心するに止りて決して自然の文をなし自然の感情を發表する能はざるが故に其企圖する目的も遂に達する能はざらんことを、要之余は我國の教育ある女子諸君が實際に適用するを得且つ女子の天職を盡し責任を全ふし得るの文章を作られん事を希望するものなり。

余昨年六月某女學校の卒業式に臨み深く此事を感じ爾來之を告白せんと欲せしもの幾度なるを知らず今『つぼみ』雜誌を讀み感いよ〳〵切なり聊か述る事斯の如し余素と無學不文充分に意を盡す能はずと雖も日本の女學に關する一大問題なれば之を等閑に附し去るに忍びず敢て一言すと爾云。

洒落齋或る日上野迄散歩に出かけたところ歸路には足が棒の樣になつて何分にも歩行ぬから鉄道馬車へ乘つて萬世橋の手前迄來ると御定通り線路を脱した、それはよいが馭者奴か自分の所へ來て降りて車を線路へ入るのを助ろと云ふから、ベランメー錢を拂つた御客樣だ車なんぞ擔ぐつて乘つたのぢヤアねエと威張つたら、馭者が此は此馬車の規則ですと云ふから何んだ人を馬車にするなと洒落たところ、それでも此は手傳(てつだう)馬車と申ますと云つてとう〳〵手傳せられた(洒落齋)

批評

○女子參政權の辨難を評す

撫象子

歐米にはウーマンス、サッフレーヂの大問題と云ふものあり、政治上の權を女子に分與し擴張せんとするの議にて、其の論すでに實際に行はれ、婦女子にして議員となるもの市長となるもの及び此等を撰擧するの權並に學務委員衛生委員となり若くは撰擧するの權を得たる地方もあり、然るに其大躰には未だ此論の實行せられざるゆえに、近頃に至る迄て其言論止むときなく昨今に至り彌よ隆盛を極むるが如し、而して其論に於て當今專ぱら要求する所ろは國會議員を撰擧するの權を相當の財産及び地位ある獨婦及び寡婦に與ふべしとの主旨にて、未だ一般の婚婦女子に與へよと迄でに切論する者にあらず況んや婦女子自ら議員となるの權を得べしなどゝ論ずるものに至つては殆んど皆無なりと云ふべし。

目下女子と政治上との關係に付き問を寄する人多し、故に左に歐米に於ける女子參政權を主張するの議論及び駁論を列擧し、且つ一々之に愚見を附して目下の輿論に對し參考の料を供へんとす、但し愚見の評する所ろは議論上に於て只だ然りと云ふのみ直ちに宜く實行せよと云ふ政治上の論辨に非ず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一　財産を所有する婦人は税を課せらるゝが故に、税を課せられつゝ市民たるの權を得ずと云ふの理なし、如此き婦人は法律に隨ふの義務あるゆへに亦法律を作るとに投票するの權利あるべし、凡そ投票の權は財産を有する爲に與へらるゝなり男性たるが故に與へらるゝにはあらず。

難　代議の權と課税の責と伴隨すると常に之ありと云ふ可らず、少き人、多くの男子も亦た女子の如くに此權を有せざるとあり。　或は曰く、民主制に於ては、人の爲に代表するにして財産の爲に代表するに非ず、財産の上に課税するなり人の上に課税するに非ず、然るに今ま女子は財産を有するが故に代表の權を得べしと云はゞ、之れ民主制の最要元則を破る者なり。

評に云く、　代議の權と課税の責と伴隨せざると固より之あり、之れ社會の不完全なるゆゑ也、故に成るべく伴隨せしむるやうにすべし、故に此は參政權可與と云ふの論に對して有効の駁論にあらず。　又た、代表は人の爲にすと云はゞ何ゆゑに女の爲に代表するとを必要とせざる乎。

二　良政府を要するとに付ては男女ともに異なるとなし、若し異なる所ろありとせば、女子は身躰脆弱なるが故に男子よりも多く政府の保護を要すると云ふと唯一の異點なり、然らばいよ〱之が意見を代表せざる可らず。　政府に對する女子の感觸ハ男子と同樣なりと云ふか、左らば之が意見を代表せしむるとも新しき害あるまじ、若又不同樣なりと云はゞ女子に此不同なる意見を代表せしむるは更に必要に非ずや。倘ほ此不同なる意見を代表せしめ男子の參考に供するとなくば、男子に女子の財産、又は離縁、子供取扱方、黴毒條例等の如き多く女子に關するの事務に對し勝手に法律を制定し女子は之が下に困苦せざる可らず。　よし女子ハ到底男子の權の下に順服すべきものとするも、此男子の權の妄用せられざるが爲に女子にも參政權を所有し居ると大切なり、女子ハ自ら支配する爲に政權を得んとするに非ず惡しく支配せらるゝとなからん爲に政權を得んとする也。

難　女子は別階級の人類に非ず其權利及利害皆な男子のと同じきとゆゑ、別けて女子の爲にとして保護せずも男子のを保護すれば其澤自づから流れん、今日女子の益となるべき事務に改良を爲すとの少なきは之に掛念せざるが爲めにあらず行ふとの困難なるゆへなり。

評に云く、　公平に考ふるに此の駁難は僻すと云ふべし、

女子の事ハ女子尤もよく知るべし、特に男子よく之を知るとなすとも、女子にハ自づから女子の情ありて男子の思ひ至らざるヿに氣付くの天質あり、一家の事夫婦の協議によりて益を得る多からば世上の事に亦た女子の意見を參考するハ當に然るべき譯なり。

三　女流の投票男流の投票を沒し男子の思ふ所ろを悉とく行わしめずと掛念するものあり、然れども女流ハ女流として一躰連合して同樣の投票を爲すべきにもあらず寧しろ男子の感化を受けて其指揮するまゝに投票を爲すヿあるまじきかと心配せらるゝほどなれば、前に云へる如き掛念ハ杞憂と云ふべし。

難　よし女流が一連帶にならざるとも、自然に男黨女黨と云ふやうなる區別の感想を生じ、則ハち茲に女流の意見と云ふ如きもの新設せられて國民の意見を此上一層分裂するヿあらん、斯ては啻に國の爲に不利あるのみならず女子自らの爲に計りても其利益とあるべき改良方も特に反對者の故障を逆へて容易く行ハれざるヿとなるべし。

評に云く、之亦た實際にあるまじき也、女流ハ女同士結托するの情に乏しく、寧しろ女を信ずるよりも男子を信じ、もしくは女を頼みにするよりも男子を頼みにするものなり、現に男女混交の結社などを見るに、女流を通じて女流としての一の輿論が行わるゝなどハ殆んどあるまじきなり、故にかゝる事も亦た男子輩が心配すべきものにあらず。（未完）

(95)

○毛糸編物敎授本（東京淺草三好町大川屋發兌 一冊百一頁中本正價金三十錢）

一名を圖入高等毛糸編物手引草とも申し、村田忠子が著わされたもので、花瓶しき、冠物、座敷ぐつ、前掛、窓掛、肩掛、レース、長靴下、半靴下、洋服の上衣下着などの類の編方をくはしく說き明し、多く圖を入れてありますから至極便利です、只だ殘念なのは、主に原書によりて反譯を爲すつた樣で、日本に適する實用の品の編方のないヿですが、然し之によりて實地に工夫したら色々の物も自づと出來ましやう。

○帝國議會要論　政治講習會藏版

勝田孫彌氏の著で、帝國議會の組織より各部の關係を詳論したもので、今日に於ては至極注意すべき書物です、特に女子に就て政權を使用する方法を論ず、の一篇を加へ、序文にも

亦余が女子社會に就て論述したるは立憲政躰の運動を圓滑に活動せしむるは女子尤も與りて其の力あるを信ずるが故に特に精神を吐露したり、

と斷はり書をして熱心に論ぜられました、即ち今の議院法では女子には撰擧權も與へられて居ないが、社會の內府に於て十分に働らくヿは出來るので、之が爲に女子の盡力を所望するとの極めて切なるよしを論ぜられました、此類の書物で斯迄女子の事に注意されたは實に少ないヿで、女學の爲に感謝すべき文字です。

雜録

○ひなかざり

碓氷山人

我國古よりの遺習にてまつりと云ふ事多し然れども祭りとし云へば人々酒を飲みて戯ふれ卑猥しき遊びをなすものゝ如く思ふ、今日は文明開化の世とか十九世紀とか云へど我國の田舎にまかりて見れば人民は依然として舊習を墨守し昔しと變はる所も見えず盆と云ひ正月と云ひ又は節句と云ひ祭禮と云ひ人々暴飲暴食をなし肉慾を専にするに過ぎず然れども三月三日の節句と五月五日の節句とは全く之に變はり幼き兒女の爲めに設けたるものにやいと靜かにまたうるはしき祭なり此祭の數日前より都も鄙も雛市とて雛を商ふ市を張り知己若くは親戚の家に女兒生るれば之を祝ふとてひなを贈るの例なり斯くして互に贈り贈らるゝ故に家々ひなを貯ふ三月の三日となれば年々之を出して飾る村市の女兒は伍々三々打むれて遊びつゝ接近き家々をまはり見る一年に一度のひなまつりとて喜色面に溢れ罪なきさまあらはれていとうるはし、雛を祭つるは偶像を禮拜するに似たれども實際に就て見れば禮拜するてう意は存せぬが如くひとへにひなの美はしきを愛るに似たり是我國人の美術心のあらはれたるものにてひな祭りといはんより寧ろひな飾りといふの當れるに如かぬなるべし斯く清きまつりなればわれも其罪なきさまを詠まんとて歌一首よみぬ、

ひなかざりあすとはなりぬいさや子ら
垣根のつばき折りてこなゝん

○新島襄先生の歌

かすみ

新島襄先生が年少氣鋭の頃國を脫し海外に遊ばんとするや、一二の知り人及び其弟君と共に別れを爲し、席上劍は拔いて立舞し、慷慨歌ひけらく、

武夫の思ひ立田の山楓にしき着ずして歸るものかは

然るに留學十年にして、人生の大目的を悟り、虛榮空慨のいたづらなるを知り、救主が犧牲人にへり下るの高德を慕ひ、學成りて日本國に歸朝するときは既に多くの洋行者と違ふと千里なりき、其頃ろ洋行歸朝者の價格甚はだ高かりしに況して先生の才德を以てす、官上の之を求ると切にして特に岩倉木戶の諸公格外に之を優待したり、然れども先生遂に官に仕へず、依然たる貧書生の儘にて西京に降り、遙かに后來を推して其地の未來のボストンたるとを信じ、玆に極めて小さき學校を設けて只だ二三人の書生に敎へを爲せり、時に亦た志ざしを歌ふて云く、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故郷にかざる錦は匣の中身にまとふべき時にあらねば嗚呼出て立ちし其上の情ひに比らべて抑も幾千の差別ぞ、少年よ悲歌慷慨が果して眞英雄の事か、謙退隱沒人の足を洗ふと果して大人の爲すまじき者か、先生の心術の歌に、

岩がねも通れとはなつ大丈夫の心の矢さき神のまに〳〵

嗚呼これ先生の熱心なりしゆえん、誠實なりしゆえん、而して神に忠實なりしゆえんなりけれ。

○西洋人のホーム

左の拔き書は亞米利加キヤンサス府國立水道會社に奉職いたし侍る家兄の來書中の一節に候御覽の上採るべきと思し召さば御誌上に掲載なし玉わりたく候

山口春野

(前略)小生渡米後見聞したる事感動したる件等に就ては屢々御報申上候通に御座候所又々申述度一事といふは文物にあらず武事にあらず商工業にあらず實にホーム(Home)の義に有之候是は日本人には一寸理解し難き話なるやも難相計候得共このホームこそ米國元氣の起る所に可有之小生は深く信して疑はざる所なり彼米人は日間熱心に誠實に業務に執掌し終業の後は即ち家に歸り夫婦親子團欒相樂み毫も餘念なく和氣陽々家内に充滿する抔申すことは蓋し此等の義に可有之所謂ホームこそ一小極樂天地にして一たび此小極樂に遊ぶ時は終日の苦勞も心配も一時に消散し始て元氣なるもの起るなるべし如此内に省みることなき故其力外に向て伸ぶ是一國民勤勉の基にして工商文物の發達する原因なりと知る且つホームを樂めばこそ人なきの地にも渡り家なきの郷にも移り悦んで千辛万苦の業に從事することを得べし左れば當時日の出の勢ある米國の基を建てたるはワシントンにあらずフランクリンにあらずホームを樂んで歐洲よりこの寂しき片田舍國に移住し勤勉に平和に誠實に業務を勵みたる士百姓ありと謂ふも可ならんか白人の世界に雄視するは偶然の事にあらずホームの力にあらずして何ぞや衣至肝袖至腕主義の壯士連抔存外一國に取て利益なきことと被存候兎も角もホームの一事たる當世識者の深考を要すべき義と思はる貴下如何に思召し玉ふや一例を擧れは當米國人の知己間の手紙には日本人の如く矢たらに世事のみを書くことは至て稀なり「内のチヤーレーは昨日父と共に公園地に散歩仕候」とか「娘のクラ、事は母と共に出懸け面白き見世物觀覽いたし其歸りかけ林檎一ダース買求め歸宅仕り一同にて大に樂しみ申候」抔つまらぬ樣のことのみにて紙上を塡むるを常とせり之れ即ち其のホームを樂むの一證と被存候之れに反して日本人の手紙を拔き見れば「當方一同

無事」と記し終るや直ちに「却說內閣變動に付ては云く」「後藤伯は漫遊と出懸申候處云々」「非生村樓にて政談演說ありしが」云々等の文字のみにて紙上を塡むるもの多し男子は尙恕すべし近來は女子の文中にも往々此類文字見受候樣也東西の差異驚歎之外無之此他御推察可被下候（以下畧す）。

○想夫憐の解

蘭陵迂人　山下重民稿

むかし平氏盛なりし時、仲國勅命を受けて嵯峨野に至り、淸盛が怒を避けてかくれにし、小督局を尋ねしに、折ふし局は琴をしらべ、想夫憐の曲を彈じ居たりしといふ事は、源平盛衰記等に記して、人の皆知る所なり、而して此想夫憐といふ文字より、其曲の意は夫の憐を想ふ事を綴りしものにて、或は想夫戀とも書すれば、婦人の情を述べしならむと思ふ人あり、かく解しぬるも無理あらねども、此曲はさる艶なる者にてはなし、想夫憐は相府蓮と書するを正とす、徒然草に、想夫戀といふ樂は女男をこふる故の名にはあらず、本は相府蓮文字のかよへるあり、秦の王儉大臣として家にはちすをうへて愛せし時の樂也、これより大臣を蓮府といふ、とあり、此は國史補に、司空于頔以樂府想夫憐名不雅、客曰南朝相府曾有瑞蓮、故號相府蓮、語訛爾とあるに據れるならむ、然れども其說尙未し、樂府解題云、相府蓮者、王儉爲南齊相、一時所辟皆才名之士、時人以入儉府爲蓮花池、謂如紅蓮映綠水、今號蓮府者自此始、其後語訛爲想夫憐、又王儉が庾果之を用ひたる時、蕭沔が書に、庾景行泛綠水依芙蓉何其麗也、とあれば此說正しとすべし、然らば儉府を賞せしより起りし名にて、想夫憐と書するは訛れる者と知るべし。

○貧乏の原因

みれ子

英國の「マンチェスター」と云へば知らぬ人もなき有名の都府なり此處は製造の盛なる處にて大賈巨商も少なからねど貧賤の懸隔愈甚しくなるは文明の大勢にや貧賤に苦しみ欠乏に悲む人々甚多しされど其貧賤欠乏に陷いる原因なくはあらず西曆紀元千八百八十三年の頃にやありけんアレキサンダーマクドヲールと云へる人其の狀態を述べたりき氏の說く所ろによれば癲癇病者と發狂人とを除ひて貧乏の狀態を二百五十四種に分てり其中百二十は家の外に起るものにして百は家の內に起るといふ其餘は漂泊する孤子流浪する無賴漢の類となす今下に其の原因を簡短に述んに（第一）は年老ひて身躰衰弱し業務を採る能はざるに原づく此の類の者彼の貧乏人中の八分の一を占む（第二）は自然に起る疾病……不養生に原づくに非ず……及び不意に蒙るの害に原因するの類にして此の

不幸に陷るものは男子多くして殆んど女子の三倍に至る、貧乏人の中七分の一は斯の種の者なり(第三)は家の主人職業を得る能はずして手を空くして徒食するに因ものなり冬時商業振はざるが爲め斯る種類の人多し貧乏人の四十分の一は此種に屬す(第四)酒を飲まず不品行をなさず只怠惰放逸に陷るの徒此に屬す然れど斯る種類の者は甚だ少し(第五)飲酒に耽りて貧乏を招く者を第五となす貧窮の徒中四分の一は此に原くを見此に奇なるは巧なる職工多くは此禍に陷る事なり(第六)女子の飲酒を嗜むに出るものなり斯の種の者蓋しマンチエスター府内貧乏者の二十分の一に下らざるべし。(つゞく)。

○赤兒に飲ます乳　愛兒生

赤兒に飲ますのは其母の乳が最も適當ですから乳の出る人は夫れを用ひれば宜しひです然し不幸にして母親がないか亦れわつても乳が出ない樣な場合には牛乳三と水一ツの割合に混じて之に白き砂糖を少し加へて飲ますのがイーです歯のはへる迄は之を用ひて成る可くは他のものを用ひないのが宜しいですパンや菓子或れ肉の樣なものは歯のはへる前は決して食いせてはいけません然し牛乳もよく注意してイー食物を喰つて居る牛の乳を用ひないといけません世間に病兒の多いのれ全く食物のわるい故ですから子供を育てる人は深く注意しなければならない事と思ひます。

○新工夫寫眞版

物象を寫眞に取り、夫の儘彫刻する工夫を發明したしとは、多くの彫刻家が年來苦心して考へ中の事ですが、二三ヶ月前中川鼎氏も漸やく多少手答へを得られた相ですが未だ十分でない樣子、然るに堀鍵吉氏が發明せられたるは殆んど成功した由にて即はち其最初の試驗で出來上つたのが次の虎の圖です、

角に財布屋と云ふ暖簾をかけて足袋、靴足袋などを商ふ家あり、或人こゝの家にてはなぜ屋號を財布屋と云ふのだと索れたら、へー足袋や靴足袋も財布と仝じく矢はりお足(錢)の入るものですからと答へし　(酒落齋)

○東京府下各女學校女生徒國分表

大日本教育會で調べられた、府下の主なる女學校の生徒國分けは左表の如くです、中にも成立學舍女子部の如きは現に百三四十名の生徒と承はるに表には大層に増加し居ます、何れ多少の相違はありましやうが、先づ大略は分ると存じます

府縣名＼學校名	成立學舍女子部	海岸女學校	櫻井女學校	習塑女學校	遊滲女校	靜女塾	跡見女學校	明治女學校	興里女學校	讀井女學校	共立女子職業學校	偕了英學校	榮山女學校	松香女學校	總計
北海道	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四	〇	二	三	〇	〇	〇	一五
東京	一四〇	四〇	六	一三	二六	七	六二	六二	一五	五四	八五	九八	二二	二六	六四四
京都	一	一	〇	〇	〇	一	二	〇	〇	三	六	一	〇	〇	一五
大坂	七	五	三	〇	〇	二	二	一	〇	二	二	〇	〇	〇	二五
神奈川	九	〇	〇	二	〇	二	〇	一五	二	二	七	七	〇	一	五九
兵庫	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四	〇	〇	六	〇	一	〇	一五
長崎	五	〇	〇	〇	一	〇	二	〇	三	〇	二	〇	〇	〇	一三
新潟	九	〇	〇	四	〇	〇	二	二	〇	六	一二	七	〇	〇	四二
埼玉	一五	一	五	三	一	〇	一〇	三	二	五	八	四	二	一	七〇
群馬	一二	七	〇	〇	〇	二	〇	九	一	〇	一二	四	二	〇	四九
千葉	一三	一	二	〇	一	二	六	五	一	二	八	一三	〇	三	七七
茨城	一二	二	三	〇	一	四	五	五	〇	二	五	八	〇	〇	四六
栃木	二	一	一	〇	〇	二	一	一三	〇	二	九	一四	一	〇	三六
奈良	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	三
三重	七	〇	二	〇	〇	一	一	一	〇	一	二	〇	〇	〇	一九
愛知	九	二	〇	一	〇	一	二	一	〇	一	六	〇	〇	〇	二五
靜岡	一九	一	一二	〇	二	二	五	一七	四	七	一七	一二	二	〇	一〇〇
山梨	四	一	二	二	〇	〇	〇	一	〇	〇	一	七	〇	〇	一八
滋賀	四	〇	〇	〇	〇	三	〇	二	〇	一	一	〇	〇	〇	一二
岐阜	五	〇	〇	〇	〇	一	二	二	一	二	一〇	一	〇	〇	二四
長野	一五	一	〇	〇	〇	二	一	二	一	二	一二	一二	一	〇	四五
宮城	九	一	三	〇	〇	三	〇	二	〇	〇	四	二	〇	〇	二四
福島	五	〇	〇	四	〇	〇	二	四	〇	〇	一〇	一	〇	〇	二六
岩手	七	一	〇	〇	〇	〇	一	二	〇	〇	二	一	〇	〇	一四
青森	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	一	六	〇	〇	〇	一六
山形	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	四	一	一	〇	一〇
秋田	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	二	四	〇	一	〇	一〇
福井	八	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	二	二	四	〇	〇	〇	一八
石川	一〇	〇	〇	〇	〇	一	一	二	〇	〇	九	〇	〇	〇	二三
富山	二	〇	〇	〇	〇	二	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五
鳥取	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	一	一	〇	〇	〇	五
島根	三	〇	〇	一	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五
岡山	二	〇	〇	〇	〇	一	〇	一	六	〇	五	一	〇	〇	一五
廣島	四	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	二	一	一	一	〇	一二
山口	三	〇	五	〇	〇	〇	〇	二	一	七	二	一	〇	〇	二五
和歌山	六	一	二	〇	〇	〇	二	九	〇	二	四	〇	〇	〇	二四
徳島	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	〇	〇	〇	四
香川	一	〇	〇	二	一	〇	〇	一	〇	〇	二	〇	〇	〇	七
愛媛	九	〇	四	四	〇	一	一	四	〇	一	三	一	一	〇	二九
高知	二	〇	〇	二	〇	七	一	六	二	一	七	〇	〇	〇	二六
福岡	一四	〇	三	〇	〇	一	二	四	〇	〇	五	〇	〇	〇	二九
大分	四	〇	〇	一	一	〇	二	二	〇	一	四	〇	〇	〇	一五
佐賀	五	〇	〇	〇	〇	〇	二	四	一	八	一	〇	〇	〇	二一
熊本	八	〇	〇	二	〇	四	一	四	〇	二	二	五	一	〇	三〇
宮崎	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二	一	〇	〇	四
鹿児島	六	〇	一	一七	〇	四	一	五	〇	五	二	〇	〇	〇	四一
沖繩	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合計	四六二	六七	五三	七四	五三	五八	一二六	一三四	五三	一四五	三一九	二〇三	一二六	一二〇	一、八六六

○亡き姉君を想ふ

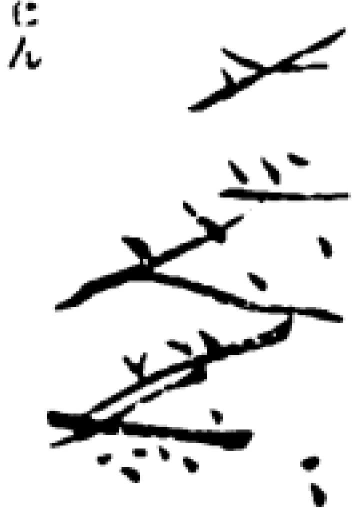
駿台　渡邊青董小子

嗚呼――想ひかへせば既に六歳の春秋を過ぬ余は余が姉なるみき子の君と神田金澤町に寓居せし時は。余は今日こそかくおとなびひげもやゝ下あごに黒む樣にもありたれ。其の當時はまだ雪の重みは知らぬ今年竹せたけは大きうなつても浮世の風にあたりしとなければせち辛き此の世の義理人情など云ふ心苦しきほだしは夢にも知らずたゞ自分の我がまゝ氣隨のみなしていと心地よげに暮し居たり。されば自然姉君に對し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ても勝手のとのみ言て露計り遠慮もせず斟酌もなさざりき。姉君の心を入れ涙を目にたゝへて讀み居る小説をば横わいよりもぎとり。姉君の母上に毎度無心言ふてやつと買い求め學校の卒業證書とともに簞笥の底に大切にしまい置きたるショールをば夜寒を凌ぐなればとて無理に引出して塵ほこりの己が部屋に持來り別に肩にも懸ずして丸めて傍に置く皆世話やかせ半分になすわざなれど今より想へば姉君は定めて心憂かりしならん。たゞ是等の事のみならで尚ほ一層姉君の心を惱ませしは余と兄上—姉君の夫なる—の間をうまくとり合することなり。余は眞身の同胞に接してさへ右の如き意地わるき有樣なればまして余とは名稱こそ兄弟の親はあれ禮儀上こそ長幼の差別はあれ、其他には何の深き係はりなき姉君の夫に對しては中々亂暴なるゑこじなる振舞をなしたり。それをかたへに見ておる姉君のつらさ或時は夫に向ふて「あ—云ふ我儘者なれば妾にめんじて」と今の罪を自身にひきうけて幾重もわび。或時は余を呼んで「兄樣は御前は勉强家なれば將來望がなると常々譽て」と夫の心の裏はらな作り言々ふて余をして間接に兄上を敬まはしめんとはせり」無形的の彌縫は古き衣をつぎ合する苦勞に何倍ましたるやも知れず。姉君はかく余を愛し呉れたるが余は更に之に感ぜず却つて花見散歩等に誘はる時は舌を出して辭する位なりし。然に姉君はこの目もくらむ程の繁華なる都を去りて心淒しき片田舍に歸り其後まだがんぜなき二人の愛らしき稚子を殘こして憐にも、あの世にかしまだちせし今日此頃に至りては我ながらおぞましきとしてけりと悔の八千度百千度臍をかむもそのせんなし。ある時はありのすさびににくかりきなくてぞ人の骨肉の兄弟なる余は如何戀しからざるべき。わすれがたみの母をたづぬるを見ては亡き人を懷ふて袖をしぼり。紅葉葉の風にちるを見ては過し方を悔みて涙を拭ふのみ—嗚呼。

きよめぬ庭



其三（下）

洒落齋主人

日　己のと聞いて呉れ、家へ歸つた所が、家婦が云ふのニヤア、「此の醉漢奴、みせしめの爲に、餓鬼を起して、其樣を見せてやるがイヽ」と云やガッタから、子供等をたゝき起して、カッポレを踊つて見せたら、强勢悦びヤアガッタせ。

月　己はナ、家へ歸つて、室へ入ろふとした所、一寸膳棚へぶつゝかつたので、膳棚がガタ〱と云と、此音に家婦奴目

を發しやがつて「何ダチー、何時でも醉らつて遲く歸つて來て、ガタ〳〵五月蠅チヤアないか、膳棚なんざア、いつそ打破して終ふがイーヤと、ぬかしやアーガッタから、早速膳棚に手を掛て引倒し、膳椀、皿小鉢の嫌なく、滅多無性に打き破してやつた者だから、欷て居やがつたぜ。

火 己は又た鼻唄を唄ひながら、家へ入つたところが、家婦奴怒りやアガッテ、「五月蠅人ダヨ、その胴滿聲で端唄もないものダ、甚何でも唄ふがイヽヤ」と、ぬかしやアガッタから、甚何を十五六續けさまに唄つてヤッタノヨ。

金 そいつアゑらく強くヤッタナ、己のはグッと柔い方ヨ、己が家へ歸つて、室へ入ろふとすると、コッリと足へ當る物があるから、何だろふと思ふて見ると、家婦が明日の支度をして置いた、パンを製へる爲の、小麥粉の揑つたのヨ、ところが家婦奴、何を吐すと思つたら「御前さん何ボ醉て居ても、マサカ其中へ足は入られまいと」と云つたから、其口の下から、長靴なりに其中へ踏込んダチ。

土 己の山の神奴は又た、背へでも登りヤアガレと云ひやがッタから、取りあへず其所にあつた梯子を取つて、家婦の背へかけて、登りだしたところ、家婦奴倒れやガッタものダから、己も轉げ落ちたのヨ、すると梯子が、己の鼻へ打つかつたので、鼻を痛したワ。

此にて六人の輩は、各々己が事共、云ひ盡して、どよみ笑ひ、居たるに、後に遺りし一人の男は、さも勢あげに、顔しかめつゝ、蹲居たれば、皆々そなたに對ひて、

一同 オイ〳〵水太、貴樣の番ダゾ、どうしたのダ。

水 皆んなは、能くも各々の家婦の云ふことを、從順く聞いたからいゝが、己れとう〳〵勘定の役廻に廻つたワイ。

一同 どうダッテ、貴樣には家婦の云ふとが聞なかつたのカ。

水 今白狀するが、此れ御前達ダッテ、出來た仕事ヂヤアないのヨ、マー聞いて呉れ、己が家へ歸つたところ、茶の如く、家婦が怒つて居て「こゝな飲扱奴が、そうも〳〵仰りたひのあら、此の水を飲んで終へ」とつて、手桶二荷に水を一杯に張つて出されたのだから、何飲ふにも飲終れ樣譯はあいヂヤアあいが、夫だから己が、此所の勘定はすると云ふのダ。

それい〳〵とどよみたちけるうち、水太は勘定をあん拂ひける、他の從順なりし夫輩も、それにてはいと氣の毒なりとて從順りし夫なる、水太の爲、又其が家婦の詞の爲、十餘り二瓶

二〇

許の酒、買ひ求めて出しければ、たれもかれも、皆興にいりて、再度醉ひ倒れけるとなん。

小説

イナツク、アーデン物語

テニソン著　某女譯

さて死んで甦つた樣なイナツクが自分の妻で有て最早自分の妻でなくなつたものを見、妻の子にして自分の子でないものが父の膝の上にゐて、和樂の滿た家族が團欒してゐる中に己の子供等が見事に生長してゐて、他人で有つたものが自分の代りに主人の位置を占め、己の特權も子供等の愛敬をも占領してゐるのを見升た時、ミリアム、レインから何もかも聞て承知してゐても、見る事の方が聞事より幾倍も強いものですから、たぢろいでブル／＼慄へ升て、木の枝にもたれ漸く倒れない樣にし升た、そして我知らず聲をたてゝ瞬の間に爐邊の快樂を悉く打破りはしまいかと氣遣ひ升た。

それ故盜人の樣に踏む板の音せぬ樣に注意しつゝそこを逃出升たが氣絕して倒れてゐる所を見つけられてはと庭の塀をさぐりながら辿り／＼に門迄歩み寄り開くにも閉るにも病室の戸のあけたてほどに心を用ゐてやがて野原へ出升た。

こゝで跪いて祈禱しようとし升たが膝が慄へて其まゝハタと倒れ、手の指の濕つた土にめり込んだまゝ祈り升た、「これはいかにも堪がたい、彼處から救はれたは何故で有つたろう…………ア、全能の神よ、惠深き救主よ、寂寞なる孤島に我を加護し玉ひし天父よ、尙一層の力を添させ玉ひて、我妻ありしものに此事を秘せしめ玉へ、我を助けて其平安を破る事なく、是を全ふさせ玉へ……我子……我子にさへ言葉をかはすまじきか、ア、彼等は我を知らず、我彼等と顏を合さば必ず事を破らん、否々親子の對面すら爲可らず……彼の母親によくも似たる孃にも又我嫡子なるものにも」と、此時少し氣が遠くなつて暫くは言葉も考もまとまらなくなり升たが起上てそろ／＼と己の淋敷宿に辿り行途すがら「告まい、知らせてはならぬ」と云事の決心を自分の倦果た心に固めつゝ行ました。

斯言たとてイナクは決して絕望と云のでありませんかつた、其決心と堅固な信仰が彼を維持しまして、心の信實から擧る祈願は洋中にある鮮水の泉の如くに其の靈魂を死せしめませんかつた、ある時ミリアムに對して「おまへさんのはなしのあの粉名屋の女房はヒヨツト先の亭主が生てゐるかと氣遣ふ事は有升まいか」と云升たら、ミリアムが「エイ／＼可愛そう

に、大氣違ひです、おまへさんでもあの人の死んだ處を見たと云てやられなすればほんに慰になり升よ」と云升た時イナックが心の中に「そんなら神がわしを此世からお召になつたら知せてやろう、それまでは神の思召を待のだ」と思ひ升た、それからイナックは施を乞ふ事を嫌て、生活の爲に働始め升た、そうしてしよふとおもへばする事は澤山有升た、桶屋も出來れば大工にもなり升て或は漁師たちの網をこしらへたり、又は多くも遣らなかつた貿易船の荷のつみおろしなどをして漸く自分の糊口丈はし升たもの丶さて自分一人の爲の働でしたから兎角希望も勢も有ませんかつた、そうしてイナックが歸つてから年月が丁度一廻りした頃にブラ〳〵病が出て段々弱つて働く事も出來ず、始め家へ引込んでゐたものが坐つて斗ゐる樣になり、其後ドッカリ床につき升た、イナックハ此通り自分の身躰の弱りゆくのを却つて快く思ひ升たなぜといふに死を覺悟した難船人が遙かにたすけ船の來るを見る悦びとイナックが總ての終りなる死の近づくのを見る悦びと少しも變りは有ませんかつた。

死ぬると考へる中に嬉敷望も起つて來升た、それは自分が死んだらその時こそヱニイに終りまで愛してゐたといふ事が告られると思つたからでした、そこで早速ミリアムを呼んで、こふ云升た「おかみさんわしは内々おまへさんに云つて置く事が有が、わしが死ぬる迄はキット人に秘して置くといふ事を誓つて下さい」「おまへさん死ぬるとは何事です、キット其の内おほして見せ升よ」としやべり立升たが、イナックは又一層嚴格に「おまへさんどふぞ誓つて下さい、此聖書の上へ手を載せて」と云れて、ミリアムは半分氣味わるそうに誓をし升た、其時イナックは眼を見張つて女を見つめ「おまへさんは此町のイナック、アーデンといふものを知つてゐ升たか」と云升た、「エイ知つてゐる事は知つてゐ升たが遠くから見た斗りでした、ソウ〳〵よく〳〵ツンとすまして歩いてゐ升たつけが、中〳〵人などはかまひつけぬ風でした。

イナックは靜かに悲しそうに答へ升た「今はそれがモウろく〳〵顏も擧ません、誰わつてかまふものも有ません、わしはモウ三日と生てゐまいと思から云が、わしがイナックです」、そこで女はビックリして薄氣味わるそうに聲をたて丶「エイおまへさんがアーデンさんだつて、エーそれはちがひませう、どふしておまへさんより一尺も丈の有つた人でした」、イナックが又言升た「神さまはモウわしを此通りに平伏させておし

まいなさつたのです、わしは悲さと淋しさで此通りにやつれたのです、併し二度名をとりかへたあの女、あとでフィリップ、レイに嫁入たあの人を貰つたのハわしに相違有ません、マア坐つて聞て下さいと云つて、船旅の事、難船の事、淋敷送つた年月のこと、歸つて來たこと、エニイを余處ながら見たとと自分の決心した事と是を今まで守遂げたとを話し升た、其女はイナックの話しを聞てゐる中に大泣に泣てゐて直く飛び出して町中にイナック、アーデンの不仕合の事を云ひろめ度てたまりませんかつた、けれども約束に縛られてゐてはこわくゝ漸く思止つてゐ升た「おまへさん切て子供丈も見てお死にあさいな、サア連れて來て上ませう」と云つてイナックが少したゆたつてゐた中に立たうとし升たが、イナックが「おかみさん此期になつて、モウ氣遣をさせて下さるな、どふぞ死ぬ迄決心を守らせて下さい、マア坐つてわしがものゝ云れる中よくわしが云事に氣をとめて聞て置て下さひ、今から云つて置升が「わしが死までゐの人を愛してゐて幸福を祈つてゐたと云事と、ふたりの間に出來た隔を除けば、二人で枕を並べた時も今も心持は同じ事だと云つて下さい、そうして母親にそつくりあゐの娘の行末の幸福を息の切れるまで祈つてゐたと傳へて下さい、息子にも其通り云つて下さい、フィリップさんにも矢張わしが幸福を祈つてゐたと云つて下さい、あの人だとてわしの家族の爲を計つた計りで、決してわるくは思わなかつたのです、もし生てる中にろく〳〵見覺のない親でも子供たちが死顔を見度といふなら來ても好と云つて下さい、わしがおやぢに相違ないのだから、併しあの人は來ない方が好と云つて下さい、それはわしの死顔を見たら生涯苦にするにちがいないからです、今となれば後の世でわしを迎へてゐるものが家族の中にたつた一人あり升、これが其子の毛であの人が剪つて呉れたので、わしは其後いつも身を離さずに持つてゐ升た、そうして墓にまでも持つて行ふと思升たが、考直したといふのはあの赤子にはこれから樂園で逢ふからです、ですからわしがない後にはこれをあの人にやつて下さい、ヒヨットしたら慰めになるかも知れず、又わしがたしかに其人と云證據にもなりませう。

こゝで話をやめ升たからミリアムレインが言葉を重ねてキットと約束をし升たがイナックは又眼を見張て念を入れて遺言をモ一度丁寧に述升て、モ一度約束するのを聞升た。

それから三日目の晩、イナックが身動もせず、眞靑な顔して

すや〳〵寐てゐて、ミリアムがゐ睡しながら側についてゐる中に大層海が鳴り出し升て濱邊にある家々に響き渡る位でしたが此時イナックはフト眼を醒し、起きあがり升て帆だ！帆だ！助かつた！と大手をひろげて叫び升たが其まゝ倒れて息が絶へました。

此通りにして雄敷壯夫が世を去り升たが、葬式は小さな港に稀なほど立派でした。（大尾）

寄書

●懸賞作文　甲　女學生初て家を持ちての經驗
乙　ホームを美しくするに付ての經驗

右作文〆切先月末迄と定め置候處段々作文を得候まゝ取調べ次號より上中下三等に分けて掲載可致候。

●寄せ書の事　寄せ書は成るべく短きを要す長き時は載すると自然遲くなり、遲くなるうちに遂に不得止掲載を見合はすとあり、夫故成べく短くして且つ面白く實際なるを懇望いたし候。

○武藏野

梧郷居士

三百年の昔を思へば、嗚呼幾れ太陽草より出で〻草に歸る一望曠漠の原野なりけり。今我爲れるところ、臥せるところも、血に染まりたる雜兵の死屍横はり、刃こぼれたる鎗の穗先、劍の切先打棄てありしにも。時々に鬪ひ來る陣鐘のひゞき矢叫の聲は幾許の眠りを覺ましたりけん。と見れば、日は早や西に沈みて、象の牙の如き月は、薄黑き雲の間より差し覗きつ、人を背なさへ埋むるばかりの草野を風そよぐ毎に驚かされて、飛び去る〻野馬は、あはや我ラムプを蹄にかけんず。佩楯はちぎれて、小袴にしたゝる血汐は見ゆめり。頭盔は飛びて、憎くや髮の毛額に下がりていと白ろし。斐もあらん、子もあるべきに、尙ほ弓矢離なすとの出來でや。遙さへ見渡して、敵ありと知りしか、弓弦取る手早く、矢一筋つがえて、打ん（ママ）す的は、あはれ――我花瓶！こは〳〵と呆れて、吾れに歸れば何事ぞ？身は尙ほ滿城春暖かなる駿臺の僑居に在りけり。

○失意嘆

郇の山人

世の中に思ふことのかなはぬ程うきものやはある、たとひ、雪の晨硝窓深くとざして錦帷の隙より微笑み月の夕翠簾斜にかゝげし情眉思を凝らす御方にても、たとひ、千金の輕裘を身に裝ひ、煙濃かなるハヾナのシガレットを口に嘯き玉の鞭銀の鞍に跨りて陽炎の絲につられて躍り時めく若草の野路に逍遙ひ、あるは十里長堤の春色に棹し歌舞の間に長き春の日をも短しとかこつ貴公子にても、あはれ一度ねぎごとのかなはぬ時は身も世にあらぬ心地して今まで、おかしみ笑みて眺めける天か下の蒼天のものも全くうきとうらみの媒介とならぬやは、跳れる獅子の如き大將も最後の軍令「セントヘレナ」！と傳へられ宮女三千の顏色を奪ひたる、たをやめも馬嵬の泥の枕に眠りては、いかで、千古の恨みに堪ゆべきやは、されば嵯峨野の月にはかなみ冬の野の女郎花なかこつも實にことはりにこそ今の世にても表面に其とあらはには言はずとも殘り心の中にたれこめて、くさ〳〵の思ひ煩らひなきこのかなはぬま〻深く沈み玉ふ青年子女や多くおわすらん、あるは「アルプス」をいだきて太西の洋を飛び超えんとしつ波間にごつと落ちこみ、あるは千仞の淵に深くくゞりて珠を拾はんとしつ龍の鱗にふれ、あるは木によりて水底の月を捉らまく注りする愚などぞ見ゆる中にも殊更高根の花浮雲の日にはかなむ友も少なかるまじ夫れ夢多きは空なること多しとかや迷ひては眞も夢の如く夢も眞の如く何れを其れと見分くべきやは、しかはあれども主觀的――易く言へば――自分の心から見れば、また、人は天の使に等しく自覺の靈物にして思想の自由あり道の何たるを悟り己の如何なるやを知るの力あるものなりされば浮草のうきたることに心を留めず世の中にありては善を行ふより靜步はあらじと世のため人の爲め力を盡して働きなば善に與みする皇天はなどか其身を幸し玉はざるべき夫れ頃刻の苦みは限りなき喜びに入るの門なりアヽ貴き友よ若し一時の思ひにのみ沈まばうきむら雲の靄はます〳〵あたり近く身をとりまき望みの光はいよ〳〵遠く消え失せ我と我身を小さく細くまた力なくするものにこ。アヽ天下失意多し一度意を失へば玉樓高閣我に於て何かせん然ども若し意を得ば破れたる伏屋月もる閒の中にも眞正の歡喜と平安は永く住ふべし、友よたとひ意を失ふとも望を失ふ勿れ迷ふ勿れ誘はるゝ勿れ心をかろくする勿れ徒に擲ぶ勿れ靜に腕を拱きて天の一方を望めされば備へられたる進むべき一條の道は明に見ゆべし然れば、

浮雲はふもとのかたに分けすてゝはれし高根の月をみる哉

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○今様姫君様の御勢揃

在神戸　しばのゑん

曾て春の舍先生の書生氣質世に出でゝ忽ち四方八方に持囃されければチット來りさ直ぐ後釜賽まで我も吾もさ設勝に氣質づくしの題號を附した木葉小說大に流行りぬ。又一度都の花へ花車が威勢よく先行しければ追かけ突かけ鬼車美人車など孰れも健腕な車夫さんが日に增し殖へ來りぬ。今又美妙殿が日頃の走筆甘洒進上主義を斷廢され推敲に推敲を重ねぬいた傑作いらご姫の優姿好評を博したるより(デモアルマイガ)露子姫――雛鶴姫――まつよ姫――いさ子姫――舞姫なんご比類稀れなる美姫麗孃方が揃ひも揃ふての御顏合せさは――てもまア御仲のよいこさ――てもまア美觀!! 奇觀!! 此分で押ゆかば紅葉小納言の物されし犬枕や猿枕も中々の味ものふれば屹度又候猫枕――狸枕――豕枕など云ふあられもない表頰の駄小說がノン〻ズイ〻スタ……スパ……さ見參するやも計りがたし嗚呼摸倣の流行も亦た盛なる哉パ、ガイ主義の傳染も亦た偉なる哉――さ天を仰て暗に洪嘆する奴輩は當世知らずの天保氣質ホイ之れはしたりかぶれたぞ)いつそ何所までも眞似ろよ眞似ろもろさもに筆の命毛つゞくまで死る覺悟で眞似ろべし。

○日出る國の歌

倚白山梨啓

一ツトヤ　日出る國の我が邦は　天壤さ遥りもあらじ其榮へ　いやましつ

二ツトヤ　深きは君の惠なり　海よりも高きは君のみいつなり　山よりも

三ツトヤ　御代平らかに治つて　民くさは外國人に誇るなり　幸ひな

四ツトヤ　世に例もなき國振は　昔より一ツに傳わる御血統で　末永〻

五ツトヤ　五十鈴の川は濁らじな　流れつゝ民の心は汚れじな　すゝぎつゝ

六ツトヤ　むぐらに生ゆる草さへも　開けゆく學びの材さなりにけり　面白や

七ツトヤ　何事にても心せよ　善し惡し惡しきを捨てゝ善を取れ　愈ろふ

八ツトヤ　倭心を種さして　諸共にいざ異國の書を見ん　かくわしき

九ツトヤ　此の國の爲め君の爲め　家の爲め世の爲め人の爲めは皆な　己が爲め

十トヤ　葦原を打ち掃ひ　打ち清よめ神の御國さなさばやな　ならばやふ

○讀賣新聞女生に關する記事を讀みて

雷町子僧

醉へるもの焉ぞ醉へるものに勸告せんや五十步を以て五十步を笑ふこそ心得ぬ吾人近刊の讀賣新聞を讀み切に感するところあり吁吾が國今日の情態は如何妓樓は變へ娼婦は驕り而して世人怪まず紳士恬たり男子の品行非常に御立派にてあり〻がら偶々女生一部の品行善からぬ迚さもはげましく嘗浸雜罵し貞操德行は特に女生に責む可きものさ誤認するは可笑し古に曰く人を正さんさ欲せば先づ自ら正ふせよさ世上の紳士三省して可なり。

開書

○愛する諸姉に申します

ていよ子

思廻せば妾等ほご世に幸福な者はありませぬ慈導の師愛援の士四方に起り立ち妾等の爲に自由の門戶は開かれて時に社會の活劇場に天賦の材能を演じようさする時期です實に樂しいではありませぬか固より從來の習勢より種々の不自由を感じ四隣聲沈むの時禍を漏すとは度々ですなれども いでや是より舞臺の上に踏込まんさする其勢力――其愉快――實に他の味ひ得ぬものがあります妾等の前途望多く任重くありますれば勵むさ共に充分愼まねばなりません。

併し是に悲しきとがあります或男子の拙父への話を申しましよう妾は襖の外で聞て居ました、(客)近頃の女子は學識は上進ですが惜いとには惡虫が付きました男女平等です彼れは爲ないに此方致せば卑屈です、さか甚だしきは米國の女子は如何です汝た田村直臣氏著米國の婦人を御覽なさいましたか日本男子は甚だ無禮です婦人に御機嫌を伺候ればなりませぬ我等は教育ある婦人ですよ、さ言ふ人を見請ることがあります又私が朋友の屬する大坂の〇〇教會の女學生の爲に紛擾を起しました又交々某牧師の宅を訪門致しますが妻君の乾燥冷遇なと屢び訪ふは厭になりました、して何等の教育を受た人かさ云ふさ大抵何々女學校卒業生で中々意張た者です牧師等の妻君等は殊別親切丁寧にせればなりませぬ夫は其の通りです其他は推して知る可しです、さ妾聞て憤然つさしました、くやしくつて堪まりませぬ直に入つて辯じようさ思ひましたが父語を繼で、併し土中の黃金で稀には實に貴ぶべき貴女があります私が知己に或る醫院に看護生の御方がありますが其親切其謙遜は心の純潔さ慈愛を顯はします是迄如是婦人に接したとがありませぬ實に砂漠中の花です私の心は清く高尙になり其慈愛に化せられました、さ只管賞嘆する計りでした、妾は聞て大に喜びました神に感謝致ましたしかし前の惡評は勝喜に顯はれて其喜を奪ひました。

諸姉よ妾は客の惡口を信じませぬ諸姉の中に如是惡評を受くべき御方は無いさ思ますれども何處かの陰へでも其樣な御方がありますならば世の不幸は何程ですか妾等の爲に身を拋つて下さる諸先生方に何の面目がありますか。

固より男子の御〻は內襲の久きより無禮なとが多いですなれども目を以て目を償ふは眞正の道德に適ひませぬ若し妾等に淸潔謙遜さ慈愛がありますなら何樣な高慢な御方でも何うして敬はずに居られましよう彼の客も貴ぶべき一婦の爲には誹の口を讚賞の舌に變へました卑める眼を敬ひの心さ爲しまた仰ぎ願くば、

妾等に眞正の德を與へられ砂漠中の泉であり樹林であり渴く者に飮ませ勞れたる者に安息を與へんとを、

慈愛の源なる救主イエスは驕ふる者不義なる者勞れたる者を招て慰藉め導く爲に來られました。

○閨秀の寫眞

久保田柳蛙

近来小說熱流行につれ或は小說家の肖像並に履歷等を知らんと欲する者多しと予此際記者諸君に希望して止まざらんとす何ぞや我邦現今文學上婦風上與かつて最も有力なる婦人の肖像を掲載せられんを是也凡そ高名の士の風を聞て之を敬慕し且其人に接せんとを希ふは人情の免れざる處況んや晩近婦人諸氏の社會に出で堂々たる有髯男子　愧死せしむるの活潑有爲なる事業を成す者往々にして之れ有るなや吾人の竊かに敬慕し且之れが謦咳に接せんとを熱望して措かざる所以なり雖然山河隔絶千里外境の士に在ては吾人の希望をして滿足せしむるを難しと云はざるを得ず故に吾人は如此き有力なる婦人諸氏の肖像並に履歷等を紙上に掲載し一は以て諸氏の事業を廣く世に發表し一は以て他の柔弱婦女史をして奮励の一端に供し併せて吾人の希望を滿足せしむるを得ば吾人何の幸か之に若かんや果して然らば自他太だ大なる利益あらんと信ず予は記者諸君の速に着手あらんとを偏に切望して止まざる以所なり。

交詢

●本鄉金助町思花子　吾人が配を定め偶を索むるに當り吾人先づ何をか擇むべき吾人豈に何をか擇ぶべき品質の抑も亦た系統か將た財產か或は容貌か要するに肉体的にか精神的にか博く深く淳識士の教をこはんと。

右の問に對しては可成く廣く達識士の答を請ひたしとにもあるがゆへ編者は暫らく默し世の大方の答を仰ぐ。

●一女子　婦人には醫術の何科たりとも不適當に候か、嘗て湯田玄達氏の男女非同業論を讀むに醫科計りが女子には適せずと大家が言ひしとあり、果して然れば小兒科の如きものも女子には適すまじきか、この問、獨逸でも此頃ろ醫學者が往々左樣に言ひますれども、若し十分なる資格から申したらば男子の中にても十人に一人も合格の人はありますまい、女子なりとて決して之が出來ぬと云ふ事もありますまい、特に婦人科などは成るべく女の方が爲さるやうに致したいと存じ升。

●コンデンス、ミルクの事　百九十六號に出ました、コンデンス、ミルクの事に付き醫學部で學びましたとを思ひ出し延引ながらお答へ致し升す、乳飲子を哺育するには其母の乳汁ほど宜きものは他にござりませんけれど若し其母の乳が出ませんとか不足だとか或は與へられませんとか云ふ樣の時には是非共之れに代べきものを要します其最も良きは姆です之を撰みますには種々の點に注意せねばなりません第一は姆の性質です無和善きものでなければなりません　又良からぬ習慣のある者ではなりません小兒は自然にそれに感染するからです　第二には姆の年齢が母のと同じ位でそして其姆が子を產みました頃が母の分娩した日と大抵同じでなければなりません之れは何故かと申しますと乳汁中の成分が產後追々と日子を經るに從つて遂つて參ります之れは小兒の發育に大なる關係がありまして丁度よくそれに適當する樣になつて參るのです又年齢によりても其成分に相違があるからです今此成分の違つた乳汁を小兒に與へますれば小兒の躰は之れに適しませんから多少害せられます筈です　第三に大切なのは其姆に惡しき遺傳病があつてはなりませぬ十分健康でなければなりません黴毒とか癩病などがありますと其乳を飲む小兒へ遺傳を受けます右の樣な完全な姆は中々に見當るもので はありません其時は仕方がありません動物の乳汁を代用するのです最も良きは牛乳です併し其中のカゼインと申すものは消化し難きものですから一番宜しいのは驢馬乳よ水を加へて稀薄にして用ゐるのです之れは最もよく人乳に類似してなるからです併し之れは得難いものですから通常牛乳を用ゆるのです又船の中などで牛乳も得られぬ樣の不得止場合にはコンデンス、ミルクを用ゆるので之れは決して牛乳の得られる所で用ゆべきものではありませんなぜと申すに之を用ひますると其小兒は肥へ太りますけれど疾病に抵抗する力が少ないです即ち病氣に罹り易いです其理は當時では未だ判然しませんけれど多分其中にあまり多くの砂糖を含むでなるからでしよう(コンデンス、ミルクは二リツテルの牛乳に一、五乃至一、八キログラムの白糖を加へ攝代七十度の温にて原量の五分の一迄よ煮つめたるものを錐づめにするものなり)世間では隨分思ひ誤りて牛乳を得らるゝ時にてもわざ／＼コンデンス、ミルクを用ひらるゝ方が多くある樣に心得ます、これは大した間違ひで牛乳でお生育てになる方が餘程宜しいのです又姆なり母なりの營養には十分氣を付けねばなりません常に動物性の食物殊に牛乳などを取るのが宜しいです之れ乳汁の成分及分量に大なる關係を及ぼすからです又適宜の運動を致しますと乳汁の分泌量が增加します　又人乳を與へたり牛乳を與へたりしてはなりません小兒の消化器を害するからです　世の母樣方御愛子を御生育てになるには之等の點にも御注意を願ひます(千葉石川氏方)。

●正誤　前號の「交詢」中に記載せし小說家の俗稱、雅號中漣楠園主人の下文明のは「ゝ」は國の某の、須藤光麟の上名太齋も人は名古の、松江釣夫は央の、此花清夫は情夫の、柳塢清夫ば情夫の、古田は右田の、牛井喜太郎は中井の、塊堂仙央は槐堂の、一線庵可祝は可候の、魁留子の下神戶又新々聞は日報の孰れも誤植なれば爰に正誤す。と濱荻英子から申越されました。

時事

○女學生の風聞

讀賣新聞は近來毎日の樣に「女學生の醜聞」と題するつゞきものを出し、漠然捕捉しがたき筆法によりて連りに女學生を罵れり、吾人細かに其文を味はふに殆んど確認し得べきものを見ず、抑そも何事を醜聞ありとするやを疑ふほどなり、云く途上たれ〳〵を目送したり、云くたれ〳〵を愛したり、云くたれ〳〵を慕ふとの評判ありと、若し如此き事を記載せば今の人類に何ものか一つの醜聞あるものなからん、而して若し女子に毫も如此きとなくんば是れ女子は既に天使と爲れる也、男子は須らく之を崇拜すべし。眼を放つて見よ、府下幾十万の男書生、及び滔々たる男子上は王公より諸君新聞記者に至る迄で、若し自ら顧みば大方は多少の疚しき所ろあるべし、而して己れ未だ完からず既に女子に向つて聖賢の完きを求む、吾人は讀賣記者の眞意果して何處に在るかを疑ふものあり。

○風聞の出處

何如なる嚴肅なる學校にても、時としては一二人の不埒なるもの出でまじきにあらず、若し此の一二人を捕へて全校を推し、更らに全躰の女子教育に推及して悉く漫罵せば、天下何の處ろに無瑕の學校あらんや、况んや實際には其一二人の不埒なるものすら之れあるに非らず、只だ何處の學校よりも追出されたる二三の女生徒を材料にして、其の現今に侵せる不品行の罪を昔日入校したるの女學校に嫁し、只だ巧みに記事を長くして讀者に賣らんとするに於ては、あゝ吾人それ之を何とか云はん。

○出處の製造元

讀賣記者しきりに筆を弄す、而して他の新聞紙の寂として之に應ぜざるは何の故ぞ、吾人之を聞くに云く、去年高等女學校の問題怒濤の如くに捲き起り、府下の女學生は皆悉とく破徳の人たるやに感ぜしめつるに、日本人固有の流行熱暫時にて冷め、雨止み風收まりて眺むれば四海は元の如し、本塲の高等女學校に於てすら何事もなかりしと分り、更に大元たる能勢榮君に對してすら今は寧しろ其非難とありしとを氣の毒に思ふほどに至りしとなれば、前年の過ちに悔ひて今日亦輕々しく事を記るすとなく、獨り讀賣記者が此頃の如くに記載するは何かの趣向あるとならんと一笑して、別に顧みざる也と云へり、或は然らん。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○よし之ありとするも讀賣記者の如き筆法は果して女子教育に益する處ろありや、記者もし不德に憂ひば何んぞ春秋の筆法を用ゐざる、記者もし自から明記しがたしと云はゞ乞ふ吾人に材料を與へよ、吾人は一々明白に其女學校及び女生徒の名を公けにすべし、九人の義士あり、一人の盜賊混ず、人呼んで此中に盜賊ありと揚言し八釜しく言ふは、直ちに其一人の名を明指して之を縛するに若かず。

○社員、アッケルマン孃を訪ふ

前號に報道したる如く、世界週遊第二の禁酒遊說員ゼッセー、アッケルマン孃去る廿二日到着ありしに付き、同じく廿四日社員を派し、橫濱第八十二番水夫傳道會館に訪問せしめぬ。孃は齡三十五六、豐肉多愛の質にて、眞率楚々人を動かし一と度び之に接する時は決して忘れがたきの愛嬌あり。社員は

貴下週遊の目的

は何如にと問ひしに、申す迄もなく全世界に禁酒上の勢力を強くし万民の感覺を召び醒まし、特に此大事業に對し婦人の同感と盡力とを隆んにせしめたしとの望みなりと答ふ、

何時本國を去り何處々々を巡られしや

と問へるに、去年一月廿九日に米國を出立し、夫よりハワイ、ニウジーランド、タスマニア、アウストラリア、シンガポール、サイアム、南支那等を週り、日本に來る迄にて既に二万六千英里を旅行したり、過越し方は僅に一年なれど前途は尚ほ五六年も掛り申すべし、征く所ろとして初見の地未見の人あれば心細きとも少なからず、尤とも本國を去りし後ち今日迄で一と度びも旅館に宿せしとなくゆく先き〴〵不思議に歡待せられ皆な愛を以て迎へ玉ふ方のあれば、固より異鄕に在るなどゝは思わずと云へど、時には古鄕を思ふとも候ふなど少さかも飾る所ろなく眼こに涙を浮べて話されたり、嗚呼此の愛情と彼の雄膽とありて初めてよく眞との事業の爲さるゝとあれ。扨て、

日本には何日迄滯在せらゝるか

と問へりしに、凡そ十週間の見込にて、京濱には合せて三週間止まり申すべし、四月には支那に禁酒上の大會あるゆへ夫迄に復た彼地に到りたしと思ふ、

此迄經歷ありし國々の嬌風上の事業

は何如にて候ひしと問へるに、何處も非常に好景況にてありしが、中にもアウストラリアは尤も末頼もしかりき、數千の

禁酒會員新に加わり、五十の部會新設せられたり、其次にはハワイありし、此處には安藤領事の盡力にて禁酒事業大ひに盛んとなれり云々とて、只管ら同領事に謝意を述べらる。次に、社員は微笑しつゝ、貴下到着の后ち尚ほ二日に足らぬに斯ることをお問ひ申すは少しく異樣なれど、新聞社の例として伺ひたきは、貴下が、

日本國に對する感想如何

にて候と云へるに、孃も大ひに喜こび、否な〳〵私は精しく貴國の事を知れりと自信いたし侍る、尤ともアメリカに在りし時より「日本と云ふ國は」と承はること屢ばあり固より只ならず感ぜしなれど、尚ほ密かに思ひたるは矢張り支那人の類ならんとて少しは輕しみて居りしなれど、ハワイ國に渡りて其地に在る日本人に接し其の事業及び精神を見て俄然昔日の感を全變し、初めて日本人と云へる人種の極まりて愛重すべき同胞なることを知り、御地に到るには一種親しきの感じをもて參りたり、夙より貴邦の友人なりと衷情より熱心に述べられたり。社員は、現今の東京矯風會其他禁酒上の會合及び事業を畧敍し、且つ何處にも困難のあることを在のまゝに述べしに、其は無論の事にて凡ろ改良の事業及び大なる事業には皆な其樣なる困難の候ふべし、然し余が知る限りにては、外國人の助けを得ず、獨立獨行して禁酒矯風上の事業に盡力せらるゝ大ひなる婦人會は、只だ

世界中、婦人矯風會あるのみ

夫故へ本國の多くの姉妹も余もともに甚たく此會を重んじ候とて、且つ婦人矯風會より、小島きよ、巖本かし兩女史を派出して優待せられたることを述べ切りに喜こび居られたり。

○谷將軍の女論

谷將軍を崇拜する人々は、將軍に據りて海外の風俗を退くべきことを言ふもの少なからず、特に女子敎育の事に關しては特に甚しきよし承わりたるが、此頃ろ、將軍が他に明言せられたるよしにて、國民新聞が記するものによれば、

余は歐洲に赴きて彼の風俗等をも視察せしが皆な甚はだ可し之を我國に取用ゆるも可なり唯だ急激に取用したるが爲め弊害ありと思はるゝは女子の風儀なり女子の風儀は我國婦女の習俗をば漸次改良すると宜しからん乎、

と述べられしよし然れば將軍は敍々に西洋の女風を輸入し以て我國の女風を改良せよと言わるゝ也、決して悉とく新女風を嫌はるゝには非ず。

廢娼記事

●●●●●●
矯風會の演說　東京矯風會は大儀見元一郎平岩愃保二氏其他多くの會員あるとなるが、來る十五日午后二時より麻布メソデスト新築會堂にて廢娼大演說會を催し島田三郎、田村直臣、イビー博士等の演說ある由、巖本も可成く出席したく存じ居れり。

●●●●●
山梨廢娼會　同會設立の事は前號にも記載したるが、彌よ設立し新海榮太郎、内藤文三郎、西川太郎、金子せん、小池太三郎の五氏を幹事とせし由。

●●
柳川　筑后國柳川に於ても、牛島林太郎、戸次幾登、福井安太郎の諸氏發起となり廢娼會を起さるゝ由。

●●
山形　山形在齋藤壬生雄氏の來書によるに同地にも、亦た廢娼會を起し尚ほ來る四月に於ける同地近邊有志者の大懇親會に於て運動の方法を計畫せらるゝ由。

●●
福井　去十二日は我が日本娼妓全廢會の第一着歩として午後七時より當福井市照手座演劇場にて大演說會を開きたり其模樣を强ひて簡單に云はんとせば會場前には日本娼妓全廢會大演說と書したる大額は勿論夜會の事なれば紅色の球燈を點し會場内は例の通り正面に演壇を設け左右に警官席並に會幹席あり又右方には幕布の如く掛りたる演題ありて第壹席は「存娼論者も亦我黨にあらずや」鎌田正七郎第二席は「廢娼論は青年社會に與らざる可からず」吉田小四郎第三席は「七万の女子」伊藤百佑第四席は「公娼を全廢する時猶早き乎」大宮貞之助なりき其外左方に日本娼妓全廢會と大筆したる横三尺五寸縱一丈四尺の大旗を掛けたりかく整頓したる會場なれども會場の不定なりし爲め漸く當日午後に至つて張紙をなさしめ「タオン、クライオル」に言ひ廻らせたる事なれば勿論新聞紙上にも廣告出來ず到底聽衆は多からざる可しと思ひ居りしに福井時さて何事も三十分乃至一時間遲刻する福井人民が如何なる風の吹きまわしやら七時前より續々入場して七時半頃は滿場立錐の地なきに至りたり〻演說中惡漢等が少々騷ぎしもさしたる事もなく十一時前に閉會せり聽衆は多く中等以上の人らしく下足錢を取りしにもかゝわらず七百余の人なりしと因に云ふ當地にては近來珍らしき多數の衆會なりしと小屋主の話なりし（日本娼妓全廢會報告委員）。

女　報

○**貴婦人法話會**　昨二十八日三條公爵夫人同令孃榎本子爵夫人等が會主となり淺草本願寺に於て貴婦人法話會を開かれたる由にて南條文雄、小栗栖香頂、古谷覺壽氏の女子教育に關する法話等ありて頗る盛會なりしと云ふ。

○**東京府高等女學校**　築地南小田原町の同女學校にては去る廿二日講談會を開き加藤文學博士の經驗と學問と題せる演說ありて生徒の外小學校教員及び生徒の父兄等も傍聽したりと。

○**外國人の存娼演說**　大學御雇教師ベルツ氏は去る廿三日一ッ橋外帝國大學講義室に於て開かれたる私立衛生會演說會に於て存娼の意見を江馬學士に托して代演せしめたり。

●**今日午后**　厚生館にてアッケルマン孃の演說あり。

○**娼妓の數**　最近の調査に據れば東京府下娼妓の數は吉原二千七十二人、洲崎千八人、品川六百三人、新宿四百五十九人、千住四百六十六人、板橋百三十八人總計四千七百四十六人なりと云ふ。

○**山口高等女學校**　は設立以來日尚淺きに係らず校運日増に隆盛に赴き目下在學生二百名に達し校規頗る嚴重にして生徒は總て校中に寄宿せしめ山口在住のもの及親戚に寄寓するものに限り保證人の願によりて通學を許し外出は一定の時間に於て舍監を付添はしめ書狀及來翰は舍監の撿閱を受くる等一切行届かざる處なしと云ふ。

○**園部婦人會**　丹波園部の有志婦人は園部婦人會なるものを組織し互に知識を交換するの目的にて旣に五十名余の入會者ありて近日其發會式を擧行せらるゝ由。

○**寄松祝**　秋田縣北秋田郡綴子驛三澤彥治氏祖母登美子は廿七才にして寡となり自來四十余年間一日の如く家道に盡力せられ敷島の道にも暗からざる由なるが今年七十一才の高齡に及ばれたればさて其孫なる三澤彥治氏は其壽筵を開かんとて寄松祝てふ題にて廣く和歌を集めらるゝ由。

週　報

○**官令**　十八日海軍兵團條例中改正追加の件を裁可公布せらる●二十一日海軍刑法中改正追加の件を裁可公布せらる

○**宮庭**　十八日天皇陛下内閣へ臨御●二十一日宮中に於て仁孝天皇御親祭あらせらる●二十二日聖上青山御所へ行幸●二十三日皇后陛下青山御所へ行啓●二十四日天皇陛下八重山艦進水式にて橫須賀へ行幸あらせらる

○**政治**　十八日山縣總理大臣を始西鄉、松方、山田、大山、榎本、後藤、青木の八大臣は内閣に參集して會議を開かる●十八日青木外務大臣は霞ヶ關の官邸に於て夜會を催せり●二十日榎本文部大臣は官邸に皇族大臣府縣知事を始め各省高等官を招待して宴會を開けり●二十一日橫濱商人派及地主派の懇親會を開けり●二十一日江東中村樓に於て自由黨總會議を開かる●二十一日内閣會議に西鄉海軍大臣を除くの外各大臣參集せり●二十二日築地すみやに於て第十三回熊本籠城會を開かる同日岡部外務次官歸朝●參謀長會議は廿三日を以て閉會せり

○**外交**　十八日獨乙公使は各國公使を招請して夜宴を開かる●二十日伊國公使は内外の貴顯を招請して饗應を爲したり同日米國公使は橫濱港碇泊の英國東洋艦隊セブレン號を訪問せり●二十三日淸國公使は宴會を開きて貴顯方を招請したり

○**文學**　二十三日淺草鷗遊館に於て能辨學會の演說あり●二十一日京橋區西紺屋町地學協會に於て國家學會月次會を開かる

○**教育**　十八日日本橋區教育會は會議を開き役員を改撰せり

○**衛生**　二十日陸軍省に於て流行性感冒に關する軍醫長會議を開けり

○**美術**　二十二日日本美術協會は總會を開き事務の報告を爲せり

○**銀行**　十七日芝區新錢座町十七番地檜山鉄之助氏外十一名より芝銀行設立の義を府廳へ願ひ出たり●二十日六十銀行の株主總會開かる

○**會社**　山陽鐵道會社長中上川彥次郎氏は去る十九日大藏省へ出頭して保護金の義に付き稟議せし由●東京電燈會社は去る二十四日總會を開き定欵改正及び役員の撰擧を爲したり

○**新誌**　三月一日より京橋區八官町惟一社に於てユニテリアンの雜誌發刊せらる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

經濟及統計

毎月一回定時刊行

●本社主幹呉文聰●

嗚呼本年ハ是レ如何ナル年ゾヤ千載一遇ナル帝國議會開設ノ第一年ニ非スヤ顧フニ朝野ノ人士カ此盛典ニ答フルノ道唯赤心空論ヲ避ルニ在リ

●本誌主筆横山雅男●

本誌ハ兄弟姉妹ノ關係アル經濟ト統計ノ親密ヲ謀リ併セテ其應用ノ進歩ヲ望ムモノナリ而シテ右兩學科ニ有名ナル學士ハ概子本社ノ客員タリ

全國無遞送料之事

見本ハ要郵劵八錢

レビー氏云經濟學を實際の一學科を爲さしめし者は統計學にてアダムスミスの著書をして不朽ならしめし者も亦統計學也

發行所は東京市麹町四丁目の經濟統計社

一冊定價前金八錢

大賣捌東京市神田裏神保町上田屋雜誌店

ガルニエ氏云統計經濟二學は之を混ず可らずと雖二科相待て其用を爲し事物の研究を行ふに當り相伴て作用を爲す甚多し

小兒科雜誌

毎月一回發行 紙數三十五ページ 一冊定價十錢 前金六ケ月分五拾錢

第三號目次

●小兒胸膜炎●名古屋早手●小兒營養品成分●小兒ノ結核療法●小兒ニ於ケル痙攣●日本小兒固有母斑●小兒袖珍處方集第一●小兒流行性腦脊髓膜炎●懷妊非妊理由妊娠ノ攝生產時ノ要點●小兒ノ兩鼠蹊脫腸●雜報●廣告欄●

前金五拾錢小爲換ヲ以テ牛込區郵便支局ヱ向ケ拂込アレバ請取ノ上御郵送致候也

東京牛込區船河原町十三番地
小兒科雜誌假事務所 錦春社

小兒科雜誌賣捌元 東京本鄉區春木町三丁目廿五番地 錦春社支店

編輯人 小兒科 松原覺四郎

產婆生徒募集

束修一圓月謝五十錢普通學ヲ兼修スル者ハ月謝一圓、寄宿料三圓、妊婦入室料一日、甲四十錢、乙二十五錢、丙十五錢、遠近貧富ニ拘ハラス產科ノ招キニ應ス

東京本所區横網町
私立 產婆學校 安生堂

幼年女生徒募集

今般新ニ幼年科ヲ設ケ女子ニ必要ナル學科ヲ敎授ス束修五十錢月謝五十錢高等科ハ從前ノ通リ但一科ヲ修ムル者ハ五十錢宿料ハ三圓

東京本所區横網町二丁目
私立 淑女館

遞信省認可

ゆにてりあん

本誌は日本國民の幸福を増進せんが爲めに愛國誠實の日本人士と米國ユニテリアン協會との協力より成れり然りと雖本誌は敢て政黨宗派の機關たるにあらず唯哲學的の眼光を放ち理學的の觀察を執て日本の社會道德宗敎を論評し廣く天下學者の討論塲に充てんとを期す換言すれば吾人々類の哲學的智識と理學的智識とを伸暢し之れが扶助を得て社會道德宗敎等の現象を表明せんと欲す抑もユニテリアン敎の目的は精神上肉躰上與に吾人人類の必要なる所を探窮し最上倫理の原則と純粋宗敎の精神とを以て之を實際に適用するにあり此敎は羅馬的敎會の體制なく又一定の信文なく但會員結合の羈絆とする所は道理の力にあり蓋し道理は人智の指針にして又眞理の標準なり此敎は常に心意の自由を計らんか爲め若しくは純粋なる基督の敎訓を恢復せんが爲め敎會的の專權と神學上の慢言に反對すべし此敎は個々人々の判斷力を擧けて盡く經典の說く所に服從せしむるとを肯んせず却て基督敎本來の記錄を以て之を哲學理學の硏究に委するを猶豫せざるなりユニテリアンの目的既に此の如し去れば此敎は獨り日本固有の特性を妨けざるのみならず却て之を保存鞏固ならしめんと欲するものなり本誌は則ち此敎を代表して運動をなさんと欲するものなるが故に日本人民が道學硏窮の心を勵まし日本人民が宗敎上の進歩を計り猶又進んで慈善敎育工業商業及び美術より以て一個人一家族の關係に至るまで悉く至美善良なる結果を收穫せしめんと欲するなり

本誌は高尙なる**社說**奇抜なる**論說**剴切なる**寄書**有益なる**雜錄を掲く**

本誌は三月一日を以**第一號**を發刊す**毎月一回**發刊

一冊定價七錢郵稅五厘半年分前金三十九錢一年分前金七十八錢●爲替は芝口郵便局に向振込むべし●見本を要する者は五厘郵券十五枚を送らば發送すへし●廣告料は一行七錢

發行所 東京京橋區八官町十七番地 **惟一社**

鈴木弘恭大人講述

●百人一首講義 上等製本金五十錢 普通製本金三十錢 郵稅四錢

右小倉百人一首を鄭寧に面白く極く分るやうに解き明し特に初學にても自づから歌の詠めるやうに敎ゆる詠歌手引を添へ本月初旬より發賣仕候間御注文の程奉願上候

三月一日 女學雜誌社書籍部

東京麴町區富士見町二丁目一番地
發行所 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ゆにてりあん

本誌は日本國民の幸福を增進せんが爲めに愛國誠實の日本人士と米國ユニテリアン協會との協力より成れり然りと雖本誌は敢て政黨宗派の機關たるにあらず唯哲學的の眼光を放ち理學的の觀察を執て日本の社會道德宗教を論評し廣く天下學者の討論場に充てんとを期す換言すれば吾人々類の哲學的智識と理學的智識とを伸暢し之れが扶助を得て社會道德宗教等の現象を表明せんと欲す抑もユニテリアン教の目的は精神上肉躰上與に吾人人類の必要なる所を探窮し最上倫理の原則と純粹宗教の精神とを以て之を實際に適用するにあり此教は羅馬的教會の體制なく又一定の信文なく但會員結合の羈絆とする所は道理の力にあり蓋し道理は人智の指針にして又眞理の標準なり此教は常に心意の自由を計らんか爲め若しくは純粹なる基督の教訓を恢復せんが爲め教會的の專權と神學上の慢言に反對すべし此教は個々人々の判斷力を擧けて盡く經典の說く所に服從せしむるを肯んせず却て基督教本來の記錄を以て之を哲學理學の硏究に委するを猶豫せざるなりユニテリアンの目的既に此の如し去れば此教は獨り日本固有の特性を妨けざるのみならず却て之を保存發固ならしめんと欲するものなり本誌は則ち此教を代表して運動をなさんと欲するものあるが故に日本人民が道學硏窮の心を勵まし日本人民が宗教上の進步を計り猶又進んで慈善教育工業商業及び美術より以て一個人一家族の關係に至るまで悉く至美善良なる結果を收穫せしめんと欲するなり

本誌は高尚なる**社說**奇抜なる**論說**剴切なる**寄書**有益なる**雜錄**を掲く

本誌は**三月一日**を以**第一號**を發刊す**每月一回**發刊

一冊定價七錢郵稅五厘半年分前金三十九錢一年分前金七十八錢●爲替は芝口郵便局に向振込むべし●見本を要する者は五厘郵劵十五枚を送らば發送すへし●廣告料は一行七錢

發行所 東京京橋區八官町十七番地 **惟一社**

鈴木弘恭大人講述

●百人一首講義

上等製本金五十錢　普通製本金三十錢　郵稅四錢

右小倉百人一首を鄭寧に面白く極く分るやうに解き明し特に初學にても自づから歌の詠めるやうに教ゆる詠歌手引を添へ本月初旬より發賣仕候間御注文の程奉願上候

三月一日

女學雜誌社書籍部

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐